

(續五十二哩一)

年菅公左遷の砌、こゝに叔母君、覺壽尼を問ふて告別したまひしところ。俗に道明寺の天神といふ、境内莊嚴にして、菅公遺愛の梅あり、舊は道明尼寺に屬せしとぞ。道明尼寺は即ち覺壽尼が閑居の蹟として由緒の靈地、ましてや代々の御門が歸依淺からざりし餘香には、恩賜の御品甚だ多し。附近には丘陵の蜿蜒として起伏せるあり驛の東方を流るゝ石川を渡りて八丁ばかりに玉手の丘あり、俗に玉手山といふ、丘に上れば河内の平野一望眼下に入る、春は菜花を麥瓏の中に眺め、秋は明月を清流の間に見る、風光絶佳なり。山腹には累代の尾州侯が信仰篤かりし安福寺あり、境内また眺望に富む。この邊、山陵多し、また驛より半里ばかりには西國五番の札所葛井寺あり、寺は聖武天皇の勅願に成りたるものと聞けば、そのむかしはいかに莊嚴を極めたりけむ、今はむかしの本堂を存するのみ、寺

内に楠公が菊水の旗を藏す。

(古)

市) 郡の名邑にして、元和の役、大阪七手組の勇將、まかも打物

取つては日本無双と呼ばれたる後藤基次が、無念の鐵砲傷に斃れしところなり、その近傍には白鳥の陵あり、畷田の八幡宮あり。畷田の八幡は欽明天皇の御宇こゝに鎮坐ましましたしもの、應神天皇を祀る、白鳥の陵は日本武尊の御陵、史に稱す、尊薨じて葬むらむとす、白鳥あり棺の中より飛ぶ、近臣これを追ふて、その羽を休めしところに陵をつくり、皆白鳥の陵と呼びぬと。近傍十丁には、おぐろ大黒あり、そのあたりに駒ヶ谷の桃園あり。

(喜)

(鎮一哩二)

志] 驛に近く喜志宮あり。有名なる壺井八幡宮へも遠からず、この社地はむかし源家が代々の館舎なりしとぞ。富田林へは一哩三十

〔富田林〕

河内南部の一市街なり、市街は高野街道に當りて堺市に通ず。驛の東南には菊水の旗もろとも千古の歴史に上るべき金剛山、巍然として雲表に聳ゆるあり、赤阪村より登れば山頂へ達する四里、絶頂には金剛山寺立ち、山麓には千早城趾存す、附近には名勝多し。

〔瀧谷不動〕

日本三不動と稱へられて遠國までも其名を傳ゆる瀧谷の不動堂は、驛の近くにあり。こゝより長野へは二哩三十三鎮。

〔長野〕

近ごろ世に知られたる三日市の錦溪温泉へは、わづかに五六丁なり。また一里ばかりの川上村には名に高き觀心寺あり、寺は眞言宗にして槍尾山と號す、南朝の柱石楠氏代々の菩提寺にして、今に遺物を藏す、境内には小楠公の墓塚立てり。その奥に南帝後村上天皇の陵あり、遠く和泉の國境には天野金剛寺あり、こゝは正平のむかし、南朝の御門が、まばしの行宮と偲ばせたまひしところと

(鎮十廿哩十より驛原柏)

を聞く、寺の背後は光の瀧落つ、所謂瀧畑四十八瀧なり。

關西鐵道

(支線)

(王寺、櫻井間)

- 〔王寺〕……達磨塚……信貴山……朝護國孫子寺……龍田川……〔下田〕……
- ……石光寺……常麻寺……〔高田〕……〔畝傍〕……畝傍山……神武天皇陵……
- ……安寧天皇陵……懿德天皇陵……久米寺……壹飯觀世音……〔櫻井〕……文殊院……稚櫻の宮址

〔王寺〕

こゝより關西鐵道線の支線、櫻井驛に赴く、瀧車この間を馳せ、わづかに三十六分にして達す、延長哩程十三哩十一鎮、王寺驛は大和川の流に沿ふ一村落にして人口殆んど三千、郡の名邑とす。驛の東方には達磨塚あり、口碑にいふ、むかし聖德太子巡遊して、こゝに飢人を見、その飢たるを憐み衣を賜ひしが、幾何もなく飢

(四)

(鎮七哩)

人その地に死す、太子曰く彼は天竺達磨大師の化身なりと、爲に墓を修し達磨塚を建てたまひしと、大和名所の一なり。驛より西北一里半に信貴山峙つ、大和河内の國の全景を一望の中に集む、山腹に朝護國孫子寺あり、むかし聖德太子が守屋と戦ひたまひし舊跡なり、俗に信貴の毘沙門天といふ。紅葉に名高き龍田川へゆくには、こゝに下車するを順路とす。

下

田 驛に近き染野村には石光寺あり、寺内の糸懸櫻は、役の行者が手づから栽しものぞ。附近には當麻寺あり、寺は用明天皇第四の皇子麻古皇子の創建にして、天平寶字年間右大臣豐成卿が息女中將姫の古跡とす、寺寶には姫が手づから織られしと傳ふる蓮の曼陀羅あり。

高

(鎮二哩三)

田 驛は南和鐵道への連絡點にして、五條に出で、橋本に至る。

畝

(鎮五哩三)

郡の名邑とす、畝傍驛へは二哩七十七鎮

傍 驛の南方に畝傍山あり、皇祖神武天皇が皇居と定めたまひし當時の橿原宮は此處なりとぞいふ、山麓には天皇の御陵あり、四方に瑞籬を廻らして、いと莊殿なり、近傍に安寧、懿德、兩天皇の陵あり、その他、久米仙人が由緒の久米寺あり、壹阪の觀世音あり。井 此の邊にて尤も繁華の名邑なり、附近の名勝舊蹟には、文珠院あり。稚櫻の宮趾あり。文珠院は孝德天皇大化年間の建立にして日本三文珠の一。稚櫻の宮は、神功皇后、履仲天皇の曾て都ましませしところなり。驛より一里半には牡丹に名高き長谷寺あり、豐山神樂院と號す、元正天皇の養老年間、僧徳道の開基とぞ、本尊の十面觀世音は其長一丈六尺、寺内廻廊の傍には貫之が梅花あり。寺の背後なる初瀬山は、古來櫻花の名所とす、今は梅花多し。關西

鐵道支線、王寺驛より發したるものこゝを終點とし、更にまた奈良鐵道に連絡す。

南和鐵道 (高田、五條間)

- 〔高田〕……〔新庄〕……柿本人麿廟……當麻寺……現德寺……栗栖小野……
- 〔御所〕……鯨の瀧……吉祥寺……〔掖上〕……久米寺……齋明天皇の陵……
- ……麻間が丘……〔葛〕……吉野山……一目千本……藏王堂……吉水院……
- ……如漁輪堂……後醍醐天皇の陵……小楠公髪毛塚……勝手明神社……喜藏院……
- ……竹林院……世尊寺……奥の院……雲井樓……瀧樓……苔の清水……
- ……四行菴……蜻蛉の瀧……吉野川……宮瀧……沙ヶ淵……子守ヶ淵……
- 妹山……青山……〔北宇智〕……〔五條〕



〔高田〕 關西鐵道の高田驛より折れて五條に向ふもの、これを南和鐵道とす、延長哩程十四哩六十九鎮、新庄停車場まで二哩七鎮

〔新庄〕 附近には柿本人麿の祠あり。蓮の曼陀羅に由緒の物語ある當麻寺まで僅かに十丁。今市の現德寺に松と柿との寄生木あり。忍海村には栗栖小野あり、秋は萩の名所とす。一哩五十三鎮を経て

〔御所〕 驛あり。こゝは下市街道に當りて郡の名邑たり。近傍には鯨の瀧あり、夏以て暑を避くるに宜し。茅原には舒明天皇が建立せられたる吉祥寺あり、境内には櫻樹多し。

〔掖上〕 この邊には久米寺あり。齋明天皇の陵あり。柏原には噺間丘あり、神武天皇が曾て巡幸の驛をとめたまひしところ。此處より葛驛に至る、その距離二哩四十一鎮

〔葛〕 此處より二里にして吉野山あり、山は我國櫻花の名所、満山は櫻樹ならざるなし、南朝五十七年の帝都、村上義光が最期の花を飾りしところなり、葛より吉野川に沿ふて、和歌に上りし六田の

(續八哩四)

渡を越ゆれば、山は皆花、その三十丁目には千本の茶屋あり、いはゆる一目千本の勝地、傍に藏王堂あり、堂は役の小角が開基むかしは壯麗なる伽藍ありしが、今はその斷礎を存せるのみ。藏王堂より三丁ばかり左方に折れて坂路を下れば、茲に南帝が蒙塵の夢を偲ばせたまひし吉水院あり、源平の時代には義経辨慶等此院に軍議を疑らせしとて、その遺物今に存す。院より五丁、こゝに小楠公が鏃もて一首の歌をとめし如意輪堂あり、その堂後、落花深きところには後醍醐天皇の陵あり。陵下には小楠公の鬢の毛を埋む。勝手明神の社には義経の鎧あり、靜御前の舞衣を藏す。附近には喜藏院あり。竹林院あり。世尊寺あり。尙ほ上る五十丁、奥の院に到ればこゝに雲井櫻あり。瀧さくらあり。苔の清水あり。西行菴あり。蜻蛉の瀧あり、山麓を流るゝ吉野川の上流、水勢岩に激するところに

宮瀧あり。沙が淵あり。子守が淵あり。沙ヶ淵の近傍には小丘の流を挾むで相對するあり、北方なるを妹山とし、南方なるを脊山とすいはゆる妹脊山なり。

〔北宇智〕 驛より五條に出づ、その間二哩三十四鎮とす。

〔五條〕 こゝは和歌山街道に當りて郡の名邑なり、幕府の頃は代官を置かれしところなり。高野山へは五里、奈良へは十二里、紀和鐵道はこの驛より連絡す。高田驛を出で、この五條驛に至る、その間十四哩六十九鎮、これを南和鐵道とす。汽車この間を馳すれば、わづかに一時間餘にして達す。

紀和鐵道

(五條、和歌山間)

〔五條〕……〔二見〕……〔福田〕……〔橋本〕……石堂丸菴……九度山……

慈尊院……高野山……金剛峰寺……高野口……妙寺……笠田……名手……粉河……粉河寺……打田……根來寺……岩出……丹月……布施屋……田井の瀬……和歌山……和歌山市



〔五〕 條) むかし天誅組の義擧に名高きところ、和歌山街道に當る。此處を起點として和歌山に達するもの、これを紀和鐵道とす。また此驛より南和鐵道線に連絡す。

〔三〕 見) 驛より隅田驛へ二哩四十五鎮。

〔隅〕 田) 此處を出で、橋本まで二哩三十七鎮とす。

〔橋〕 本) 「昨日剃つたも今道心、一昨日薙つたも今道心」一、あはれ石童丸がはるぐ父を尋ねし舊蹟へは驛より二十丁。またかの眞田幸村が暫時閑居の夢を結びし九度山はへ一里餘。慈尊院へは二里、弘法大師示寂の靈地たる高野山へは三里とぞいふ。そもく高野山金

三) 哩

(鎖九十七)

〔高野口〕 次なる妙寺驛へ二哩三十七鎮。剛峰寺は、弘仁七年、時の御門嵯峨天皇の勅允に依りて僧空海の開基にかゝる、寺院七百有餘、支院四百餘、總寺域六十七萬五千坪とぞ、山は海面を抜くこと數千尺、まかも樹木鬱蒼として夏尚ほ寒し

(鎖四十三)

〔妙〕 寺) 和歌山よりするもの此處に下車して高野に登るを順路とす、驛は紀の川の沿岸にあり。笠田驛へは二哩二十二鎮。

〔笠〕 田) 此處より三哩九鎮にして名手驛あり。

〔名〕 手) 驛より粉河驛には一哩五十五鎮あり。

〔粉〕 河) 此處よりは西國第三番の札所、粉河寺に近し「父母の恵みも深き粉河寺」あはれこの一句よ、轉た吾人をして無量の感慨を起さ

しむるに似たり。打田驛へは二哩三十鎮。

〔打〕 田) 驛の西北一里半に根來寺あり、寺は眞言宗新義派の總本山に

して、境内櫻樹多し。岩出驛に至る其間二哩五十六鎮

〔岩出〕 此處より舟戸驛へは僅かに六十鎮

〔舟戸〕 驛を出で二哩六十六鎮にして布施屋驛あり。

〔布施屋〕 田井の瀬驛へ一哩と六十七鎮

〔田井の瀬〕 驛より和歌山驛に至る、其間二哩と六十二鎮

〔和歌山〕 こゝは南海道第一の大都會にして紀の川の口に望む、舊は徳

川氏五十五萬石の城下、まかも港は狭小なれど、以て錨を投ずるに
足る、人口六萬三千、百貨の集散自由に商業また繁盛なり、特に多
量の密柑を輸出す、大阪市より十有七里、紀和鐵道は五條を起點と
して此驛に至る、延長哩程三十二哩十九鎮、汽車は五條を發して
二時間餘にして達す

南海鐵道 (難波、和歌山間)

- 〔難波〕……〔天下茶屋〕……天下茶屋仇討の蹟……聖天山……兼
好法師薬打石……天下茶屋遊園地……天満宮……紹鷗の森……阿倍野神社……
阿倍晴明誕生地……〔住吉〕……官幣大社住吉神社……住吉公園……反橋……
……高灯籠……岸の姫松……淺澤小野……墨の江の岸……道里小野……霞松
原……我孫子觀音……〔大和川〕……大和川……大和橋……〔堺〕……泉府
……龍神町……大濱公園……燈臺……第五回内國勸業博覽會附屬水族館……
……全噴水器……開口神社……菅原神社……反正天皇陵……南宗寺……有柏
紹鷗、利休の墓……群雲寺……妙圓寺……仁徳天皇陵……〔湊〕……履仲天
皇陵……百舌鳥八幡宮……家原の文珠……〔浪寺〕……高師の瀨……瀨寺公
圓……官幣大社大鳥神社……信太の森……葛葉稻荷……〔大津〕……穴師神
社……妙泉寺……榎尾山……〔岸和田〕……岸和田城……牛瀧山……施福
寺……〔貝塚〕……願泉寺……久米田の池……水間の觀音……〔佐野〕……
蟻通明神……犬鳴山……楠園右衛門之墓……〔樽井〕……金照寺の梅林……
山の井の古蹟……〔尾崎〕……西本願寺御坊……揚柳山法福寺……惡七兵衛景
清が邸趾……〔箱作〕……はこの浦……田山稻荷……〔深日〕……吹頁の浦……
……〔和歌山〕……和歌山市……和歌山城……和歌山縣廳……岡公園……

の森御坊……根上り松……和歌の浦……紀三井寺……加太……粟島……
高野山……慈尊院……九度山……真田幸村閑居の跡、



〔難波〕

南海鐵道の起點にして難波新地六番丁にあり、戎橋の通りにありて千日前に近く道頓堀に近き繁華の地を占む。

〔天下茶屋〕

關西鐵道の城東線は天王寺驛より此の驛を経て住吉驛に達す天下茶屋は昔時豊臣秀吉の屢々遊びたる地にして有名なる「せさい」と呼べる茶屋ありしが、今は其おもかげを存するのみ、またかの芝居に天下茶屋の仇討とて、孝子林源次郎が父兄の仇當麻三郎右衛門を討ちしところは、この村の北端にして今は其跡に地藏尊立たせ給ふ。村の東方には聖天山あり、歡喜天を祀る、境内に兼好の薬打石あり、寺僧曰く、兼好法師、北畠顯家卿に従ふて此の地にありし

四 哩 一)

(續 十)

が、卿の没後、世を果敢なみ夜なく此の石を敷いて藪を打ちつゝ草履を作りしとぞ。聖天山につゞきて天下茶屋遊園地あり、春の花以て観るべし。村を南方に出づれば天満宮あり、境内の森は茶人紹圃が幽棲の蹟なりといふ。その南方なる阿倍野神社は別格官幣社にして北畠顯家卿を祀る。此處より東方三丁あまりなる阿倍野村は天文博士阿倍晴明の誕生地といひ傳わて村の北端に一基の碑あり。

〔住吉〕

この驛は關西鐵道城東線の接續點なり、この驛を出で二丁あまりに官幣大社住吉神社あり、住吉神社は古來津の國の一の宮と稱す、祭神は底筒男神、中筒男神、表筒男神、神功皇后の四柱を祀る、社殿の結構壯嚴にして境内また廣し、社前の蓮池は夏ごとに紅蓮白蓮の咲出るあり、その上に架れる反橋は構造奇巧を究む、月毎の卯の日は社頭に來り賽するもの多く、まかもその家土産は土人

哩 一)

(續十四)

形、住吉踊、蒸し芋に限れるもおかし、社地は遠く西方に亘りて、その極海濱に連なるところ方五丁ばかりは凡てこれ松原なり、これを住吉公園とす、園の西端に高燈籠あり建築古雅愛すべし。住吉神社近傍には由來歌に詠まれし古跡鮮少からず、曰く岸の姫松、曰く淺澤小野、曰く墨の江の岸、曰く遠里小野、曰く鍛松原、など、またこの社頭より東南凡そ十八丁にして我孫子の觀音あり、節分には貴賤群集す。

(續七十哩一)

〔大和川〕 停車場は大和川の北岸にあり。大和川は大和より來り、その河内の柏原を過ぐるや、石川と合し、此處に落ちて海に入る、この川は即ち攝津和泉の國境にして、その紀州街道には大和橋を架す。〔堺〕 堺は舊堺の津と呼び、攝津、河内、和泉の境に當りしとぞ、むかし明德年間山名氏こゝに城いて泉府と號せし以來、大内氏、細

(續四十七)

川氏の治下なりしが、徳川政府となつてより堺奉行を置かれ、明治の初年堺縣を置かれしかど、幾干もなく廢されて今は大阪府の堺市となりぬ、過ぎし歴史を繰返して、この地より出たる人々を數ふれば、牡丹花宵柏あり、武野紹鷗あり、小西行長あり、千利休あり、曾呂利新左衛門あり、魚屋助左衛門あり、地獄太夫あり、そもく堺の地、今はむかしの繁華なけれど、なほ戸數一萬あり、人口五萬あり、まかも大阪とは電話の便あれども時勢の推移は能くこの地の繁華を維持すること能はず、名産の絹通、又物さへその販路の年に減少しつゝあるは嘆くべきの現象にあらずや。堺驛より西南、龍神町の遊廓を横切つて六丁ばかり行けば、こゝを堺の西南端にして俗に大濱公園と呼ぶ、打寄する大阪灣の波も靜かに淡路島山あれかど見ゆ、港頭には不動緑色の燈臺あり、また濱に沿ふたる公園内には

料亭軒を並ぶ、川芳あり、丸三あり、一力あり、茅海樓あり、皆魚肉の新鮮を以て名あり。この公園は第五回内國勸業博覽會附屬敷地にして、水族館こゝに建築さる、さてまた堺市内に見るべきものは、甲斐町に開口神社あり。この南門には有名なる大寺餅の本店あり。戎の町に菅原神社あり。その戎の町を東方に出づれば反正天皇の陵あり。南族籠町には南宗寺あり、こゝに肖柏、紹鷗、利休の墓あり。宿院の東方には祥雲寺あり、俗に松の寺といふ、境内に六七間も蜿蜒たる名木五葉の松あり。また材木町の東には妙國寺あり。文祿年間油屋常喜が創建せしもの、境内に有名なる蘇鐵あり、周圍二丈五尺、高さ二丈、大枝二十三本、小枝七十八本とぞ數ふ、また市を東方に出でし船松村には仁徳天皇の陵あり、一に大仙陵と呼び又た百舌鳥野陵といふ。

〔濠〕 驛より半里ばかり東北に履仲天皇の陵あり、西百舌鳥村には百舌鳥八幡宮あり。また行基菩薩の開基とぞいふ家原の文珠への順路なり。

〔濱〕 こゝは古昔の高師の濱にして、今は濱寺公園といふ、砂白く松青くして風光絶佳なり。これより八丁あまり、大鳥村には官幣大社大鳥神社あり。また二十丁を隔てし信太村には信太森あり、わづかに二十間ばかりの森なれども千枝の樟と呼ぶ巨木あり。有名なる葛葉稻荷は此處にあり、月毎に一日十五日を期し、南海鐵道はこゝに葛葉停車場を置いて臨時停車す。

〔大津〕 驛より十町にして府社穴師神社あり、千年以上の古き勸請とぞ、楠公寄附の石灯籠あり。また一里餘にして有名なる和氣の妙泉寺(日蓮宗)あり。槇尾山へ登るには此處よりするを便とす。

〔岸和田〕 岸和田は舊岡部氏の城市にして人口二萬、紀州街道に沿ひ大

阪までは七里半、この地もと岸と稱せしが南朝の忠臣和田高家此處

に城さしより岸和田といひ傳わしとぞ。この驛より三里にして牛瀧

山あり、役行者の開基にして秋ごとの紅葉は攝の箕面に勝るとぞ

いふ。牛瀧山の北方には楯尾山あり、山の半腹に立つ施福寺は西國

順禮第四番の札所なり。

〔貝塚〕 こゝは岸和田と共に和泉の名邑にして、中の町なる願泉寺は

和銅年間行基菩薩の開基にて俗に貝塚御坊といふ。驛より半里ばか

り八木村には久米田の池あり、周回一里半。また有名なる水間の觀

音までは驛より一里餘、初午の日は參詣雜沓す。

〔佐野〕 こゝより五六丁にして蟻通明神あり。また二里餘にして泉

州第一の勝地とぞいふ犬鳴山に達す。

〔樽井〕 驛あり、この邊風光よし。驛より一里あまりにして有名な

る金熊寺の梅林あり、この梅、この景、月ヶ瀬に並ぐ。これを古老

に聞く、この邊りは、歴史に出でし山の井の古蹟にして、舊は足井

と書きしを、いつしか今のやうに書き改めしものとぞ。

〔尾崎〕 海に沿ひたる一市街にして西本願寺の御坊あり。此處より一

里あまりには關白秀次の落胤の潜みしといふ寺院あり楊柳山法福寺

といふ。また平家の一人悪七兵衛景清は此處に暫時の浮世を忍びし

とて今も口碑に存す。

〔箱作〕 むかしは「はこの浦」と稱し、往時の朝廷よりは石土りの連と

いふ姓を賜はりしは、この浦の石工なりしとぞ、今も石材に細微の

(銀八)

〔樽

(銀三十四哩一)

〔尾

(銀五十哩二)

〔箱

四)

(哩)

彫刻をなすこと甚だ巧なりといふ。驛より十丁にして田山稻荷あり

(深)

信仰の男女往來常に絶わす。目] こゝぞ古昔の吹負の浦にして、代々の歌集に入りたる月と千鳥の名所なり。

「天津風ふけひのうらにある田鶴のなごか雲井に歸らざるべき」

藤原清正

〔和歌山〕

(北口) 北口は紀の川の北岸にあり、僅かに六丁にして和歌山市に達す。和歌山は徳川親藩の舊城市にして東西二十餘丁、南北二十八丁に亘り戸數殆んど二萬と稱す。市の中央虎伏山には和歌山城の天主閣高く松翠の間に聳れ、轉た南龍公の遺業を偲はしむ。市内西汀町には和歌山縣廳あり。岡山町には岡公園あり。鷲の森堂前町には鷲の森御坊あり。名高き根上り松へは一里、和歌浦へは一里

りよ驛波瀾點紀)

(鐵六十七哩八十三至に驛口北山歌和のて)

半。紀三井寺へは一里半。加太へは三里、高野へは十二里とぞいふ。和歌浦は又た明光の浦と呼ぶ、風光の明媚なる日本三景に亞ぐ。紀三井寺は名草山の半腹にあり西國巡拜第二番の札所とす。加太は大阪灣に臨み、紀淡海峽を擁す、友ヶ島砲臺その前面にあり。有名な加太神社、粟島大明神こゝに立せ給ふ。高野山は弘法大師の開基にして、また師が示寂の地なり、七堂伽藍頗る莊嚴を極めて實にや我國第一の靈場、その信徒は全國に涉りて此處に賽するもの常に遍照金剛を唱ふ、山は海面を抜く數千尺、夏尚ほ冷かなり。南海鐵道の北口驛に下りたる人は、更らに紀和鐵道に依りて名倉、又は妙寺驛に下車し、大師慈母の舊蹟なる慈尊院を拜し、九度山に一世の軍師眞田幸村が閑居の蹟を弔ひ、直に登山するを順路とす。

高野鐵道 (沙見橋、長野間)

- 〔沙見橋〕……〔木津川〕……三軒屋……大阪紡績會社……西波町……木津……
- ……〔勝間〕……帝塚山……勝間村……〔住吉東〕……住吉神社……瀨原屋の笠松……我孫子觀音……淺香山……〔堺東〕……堺中學校……方違神社……高須稻荷……妙國寺……祥雲寺……大仙陵……大瀨公園……〔西村〕……金岡神社……法雲寺……〔狹山〕……狹山池……〔瀧谷〕……瀧谷不動……〔長野〕……錦溪温泉……千早城趾……瀧畑四十八瀧

〔沙見橋〕

關西鐵道の湊町驛より西方へ八丁。道頓堀川に架したる沙見橋の近くに宏莊なる建物あり、これを沙見橋驛とす。高野鐵道線は此驛を起點として河内の長野驛に達す。驛より西北には松島の遊廓あり。大阪府廳あり。その間僅に十數丁に過ぎず。

〔木津川〕

西方は川を隔て、三軒家に對す、舟楫の便尤も多し。驛の東

〔一〕 (哩九十七)

方は舊渡邊と稱せし西濱町なり。木津青物市場、さては名高き木津の大國天まで十五丁にして達すべし。三軒家には大阪紡績會社あり。〔間〕 關西鐵道線との交叉點なり。明治三十三年大演習の砌、大元帥陛下の駒を止させたまひし帝塚山へは驛より五丁。驛は天下茶屋村の北端、勝間村への街道にあり。勝間はこの邊の名邑にして行商を營むもの多し、勝間商人の稱あり。

〔住吉東〕

驛は住吉神社の東門に近く、上住吉にあり。住吉公園へ三丁あまり。浪速屋の笠松へは八丁、厄除に名高き我孫子の觀世音へは十五丁。瀧車はこの驛を出で歌に詠まれし淺香山を東方に見つゝ堺東驛に入る。

〔堺東〕

驛は堺市の東端にあり、驛の近傍には堺中學校あり、方違神社あり、高須稻荷へも近し。妙國寺、祥雲寺、大仙陵、いづれも十

〔西〕 丁以内にあり。大濱公園へは十五丁、こゝに第五回内國勸業博覽會附屬水族館あり。

〔西〕 村 畫聖巨勢金岡が靈を祀れる金岡神社は驛より二十丁、今井の法雲寺へは二十五丁、狹山驛に至る二哩十八鎮。

〔狹山〕 驛より五丁、有名なる狹山池あり、周回一里、楠公記に曰ふむかし此池に巨蛇住みけり、楠氏の郎黨瀛池平九郎勇を奮つて退治せりと、今もこの邊りの口碑に残りぬ、薄暮池畔に立てば池深うして水縁に物色うたゝ物凄し、我國最古の池とぞいふ。

〔瀧谷〕 驛より二十五丁、そこに瀧谷の不動尊立たせたまふ、日本三不動の一と稱して、靈驗灼著なりといふ、長野驛まで二哩七鎮とす、

〔長野〕 近傍には錦溪の温泉あり、近時浴客常に多し、楠公が籠りし千早城趾へは二里、紅葉に名高き瀧畑四十八瀧へは三里とぞ、沙見

橋を出で、この驛に達す、延長哩程十七哩三十一鎮

西成鐵道 (大阪、安治川口間)

- 〔大阪〕……〔福島〕……福島天神……五百羅漢……浦江の聖天……〔野田〕……野田の影藤……圓満寺……〔西九條〕……八州軒……住友鑄鋼場……〔安治川口〕……櫻島遊園地……築港



〔大〕 東海道官線大阪驛を起點として、安治川口まで往復するもの、これを西成鐵道とす、延長哩程三哩五十二鎮、瀧車この間を走するわづかに四十分にして往復す。

〔福島〕 驛の近傍には福島天神あり。五百羅漢あり。浦江聖天あり。

野田驛まで七十六鎮

〔野田〕 附近には有名なる野田の影藤あり。證如上人が舊蹟とぞい

ふ圓滿寺あり。西九條驛に至る其間五十二鎮

〔西九條〕 驛に近き春日出新田には八州軒あり、伏見桃山御殿の用材を

移して此處に建てたるもの、眺望極めてよし。傳法には住友鑄鋼所

あり。安治川口へ一哩四十二鎮

〔安治川口〕 こゝに遊園地あり。櫻島といふ、海岸に櫻樹を植う、地廣く

して各種の競争場に適す。築港の工事を見んと欲せば、こゝより

観覧船の出るあり。

阪鶴鐵道 (大阪、福知山間)

- 〔大阪〕……〔神崎〕……〔塚口〕……〔伊丹〕……伊丹町……野ノ宮祇園……
- 〔池田〕……池田町……吳織神社……漢織神社……木部牡丹園……大廣禪寺
- 箕面山……〔中山〕……中山寺……木接大夫の舊蹟……山本牡丹園〔寶塚〕……
- ……寶塚鑛泉……〔生瀬〕……有馬温泉……〔武田尾〕……武田尾温泉……〔道
- 場〕……〔三田〕……花山院御廟……〔廣野〕……〔相野〕……〔藍本〕……〔古
- 市〕……城山稻荷……清水觀音……〔篠山〕……春日神社……龍藏寺……
- 高仙寺……文保寺……籠防温泉……辨天瀧……〔大山〕……追手神社……
- 金ヶ阪隧道……〔下瀧〕……惠日寺……〔谷川〕……光明寺……瀧の川……
- 三草山……〔柏原〕……八幡神社……鬼の架橋……〔石生〕……圓通寺……
- 香真不動……高源寺……〔黒井〕……〔市島〕……神池寺……〔竹田〕……
- 〔福知山〕……福知山……天橋立……大江山……舞鶴軍港



〔大阪〕 驛より官線神崎驛を過ぎ、折れて丹波の福知山に赴くものこ
れを阪鶴鐵道とす。大阪より神崎まで四哩四十八鎮

〔神崎〕 (鎮五十四哩二) 〔池田〕 (鎮九十六哩三)

この驛より北方に折れて塚口に至る、其間一哩三十八鎮

〔塚口〕 此處より伊丹驛に達す、その間二哩六鎮

〔伊丹〕 戸數二千人口殆んど八千、古來灘目の稱あつて銘酒を出す、

その天王町には野の宮の祇園あり、延喜四年の鎮座にして素盞烏尊を祀る。

〔田〕 池田は戸數一千六百人口殆んど六千、凡そ攝津の北方山村より出る産物一たびこの町を過ぎて大阪に入り神戸に出づ、されば其繁華却て伊丹の上にある、町の南端には吳織神社、北端には漢織神社あり、こゝより一里餘にして箕面山あり、寺を瀧安寺といふ、崖に懸れる瀑布は直下十二丈、白練の如し、まかも秋には紅葉の錦繡あり、近畿の絶勝と稱す、停車場より北方へ八丁ばかりにして木の部の牡丹園あり、我國牡丹の本場として其名高し、東北五丁には大

〔中山〕 (鎮五十五哩二) 〔寶塚〕 (鎮一哩一) 〔生瀨〕 (鎮三哩四)

廣禪寺あり、櫻花を以て近郷に鳴る。

〔中山〕 こゝに名高き紫雲山中山寺あり、本尊は十一面觀世音にして西國巡禮二十四番の札所なり、山には櫻樹多く風光佳。附近に豊太間が命名せし木接太夫の舊蹟あり。この邊り園藝家多くして全村一大植物園の觀ありといふ、山本牡丹園尤も名あり。

〔寶塚〕 驛は中山より西南にあり。この寶塚の鑛泉には多量のノロールナトリウムを含むといへば、脚氣にもよろしく、子宮病、貧血病にもよろし、わけて僂麻質斯には特效ありとぞ聞く。

〔生瀨〕 驛よりは有名なる有馬の温泉へ二里餘、有馬は古來關西一の名泉と呼べる、僧行基の再興するところなり、温泉地は海面を抜くこと實に一千一百五十五尺、されば冬寒うして夏亦た冷やかなり、坊は十二ヶ處あり建久の昔より代々嗣ぎ來りしものにて池の坊尤も顯

はる。近傍に有馬六景あり。

〔武田尾〕 驛には新開の鑛泉あり。

〔道場〕 驛は武田尾より二哩二十鎮。三田へは三哩四十五鎮とす。

〔三田〕 此處は九鬼氏の舊城下にして、山間なれども稍繁華なり。東北一里半に花山院の御廟あり。廣野驛へは三哩六十鎮。

〔廣野〕 この驛より相野驛へ二哩五十二鎮。

〔相野〕 此處を出で、藍本驛に至る、其間二哩四十九鎮。

〔藍本〕 停車場より次なる古市驛へは三哩二十七鎮とす。

〔古市〕 この驛より西方十五町に城山稻荷あり。三百年の古社にして、

殿堂壯麗なり。また西南二里を隔て、清水觀音あり、西國二十五番

の札所とす。

〔山〕 篠山は舊松平氏の城下にして名高き春日神社あり、巨利には

高仙寺あり。龍藏寺あり。文保寺あり。籠防の鑛泉は病症を養ふに

宜しく。辨天瀧は避暑に宜し。

〔天〕 驛より北方一里にして追手神社あり。それより二三丁を隔て

、金ヶ坂墜道あり、山腰を穿つて縣道を通ず、坂路數十丁の間に山

櫻を植う、春は一望花の雲に埋まるとぞ。

〔下瀧〕 驛より下瀧川を隔て、惠日寺あり、細川頼之が開基といふ、

頼之は足利義滿を輔佐せし一代の賢人なり、かの『人生五十愧無功、

弁木春過夏巳中、満室蒼蠅掃難去、起尋禪榻臥清風』の一絶は、今

も尙人口に膾炙す。

〔谷川〕 驛より五里、播州界に光明寺あり、名高き瀧の川の香魚狩あ

り。かの壽永年間、源九郎義経が鷲尾經春を得たる三草山は、驛よ

り六里とぞいふ。

(哩二十三) (四)

(哩二十五) (二)

(哩五)

(哩一) (三)

〔柏原〕 此處に入幡神社あり、この社は過ぎし昔、豊太閤の命により掘尾茂助吉晴が奉行として造營せしものごと。驛より一里ばかりに鬼の架橋あり。

〔石生〕 驛の近傍には有名なる圓通寺あり、西北二里あまりに香良の不動あり、堂下に瀧あり盛夏以て遊ぶべし。秋には高源寺の紅葉あり。

〔里井〕 驛より市島に至る、其間四哩九鎮。

〔市島〕 停車場を東方へ二十丁、神池寺あり。竹田驛へは二哩四十八

〔竹田〕 附近なる中竹田に石像寺あり、その名高し。こゝより福知山

へは四哩四十三鎮あり。

〔福知山〕 篠山より九里、舊は朽木氏の城下にして今は兵營あり、市街

(驛阪大よ七十一哩三十二鎮)

は音無瀬川の西岸に臨む、舟を雇ふて川を下れば半日にして天橋立を觀るべし。橋立は日本三景の一、その風光の明媚なる、成相山上よりこれを望めば、松青く砂白くして白帆その間に點綴せる、宛然一幅の畫圖なり。驛より北方へ一里、丹後との境には、酒頭童子が住みしとぞいふ大江山あり。舞鶴の軍港へは人車の便あり。

東海道線 (大阪、名古屋間)

- 〔大阪〕……大阪市……〔吹田〕……總持寺……勝尾寺……〔高槻〕……古曾部村……能因塚……水無瀬の宮……櫻井驛……〔山崎〕……天王山……男山八幡……〔向日町〕……長岡天神……粟生光明寺……柳谷觀音……〔京都〕……京都市……禁裏御所……三條大橋……木屋町……西陣……本能寺……相國寺……御靈社……下御靈社……白峰神社……護王神社……東本願寺……西本願寺……本國寺……佛光寺……六角堂……壬生寺……東寺……興正寺……先斗町……七條新地……五條大橋……島原……東山……

圓山公園……インクライン……修學院……東福寺……通天の紅葉……泉涌寺……帝國博物館……三十三間堂……耳塚……方廣寺……妙法院……滴翠園……音羽の瀧……清水寺……清閑寺……建仁寺……高峯寺……知恩院……栗田青蓮院……聖護院……南禪寺……銀閣寺……永觀堂……若王寺……黒谷……眞如堂……八坂神社……吉田神社……吉田が岡……第三高等學校……京都大學……祇園町……四條通……四條河原……上加茂……下加茂……三宅八幡……大徳寺……建勳神社……金閣寺……平野神社……北野天神……妙心寺……〔稻荷〕……稻荷山……醍醐寺……〔山科〕……大石其雄閑居の蹟……深草少將の邸址……小町塚……〔大谷〕……達阪山隧道……〔蟬丸閑居の古蹟〕……關の清水……關寺小町……〔馬場〕……大津町……近江八景……〔草津〕……姥ヶ餅……野州の玉川……〔野州〕……三上山……〔八幡〕……〔能登川〕……〔河瀬〕……〔彦根〕……彦根城……〔米原〕……米原町……琵琶湖……〔醒ヶ井〕……〔長岡〕……〔柏原〕……〔關ヶ原〕……關ヶ原……不破の關……築物語の古跡……〔垂井〕……後光嚴帝行在所……南宮神社……〔大垣〕……大垣町……大垣城……養老公園……養老瀧……〔岐阜〕……岐阜市……稻葉山……岐阜公園……長良川鵜飼……〔木曾川〕……木曾川……大山城……〔一ノ宮〕……眞清田神社……〔清洲〕……清洲城……〔名古屋〕……名古屋市……名古屋城……東西本願寺別院……東照宮……建中寺……櫻天満宮……大須觀音……政秀寺……萬松寺……豊國神社

……加藤清正の邸址……甚目寺……津島神社……津島祭……小牧山……小牧山公園

〔大阪〕

いにしへの難波津、今は大阪と稱して我國第二の都會なり。そもく大阪の繁華は、豊太閤が此處に居城を築いて施政の中心を定めしに起り、徳川氏のころには大名小名いづれも此處に倉屋敷を設け、以て商業發達の基を開きぬ、見よ、市内を蜘蛛の巣に纏ふたる十有八ヶ所の停車場には定時に汽車の往復するあり、百貨ごころに集まり百貨ごころに散ず、まかも市政交通の機關は整然として完備せるのみならず、近年著しき工藝の進歩に伴ふて三百餘ヶ所の工場には三萬有餘の職工を役し、綿絲の紡績に、器械の製作に、燐寸の製造に、競ふて其巧を凝しつゝ、市街の股賑その繁盛を極む、今や水道の敷設既に成りぬ、空前の工事たる築港ごころに竣功せば、

(四哩六十四欝)

その隆昌期して待つべし、これを歴史に繰れば、畫伯英一蝶も此處に生れぬ、名士大鹽平八郎も此處に生れぬ、史家頼山陽、文豪近松門左衛門こゝに一家の名を擧げぬ。

〔吹田〕 郡の名邑にして人口四千五百とぞいふ、有名なる朝日ビール醸造所あり。茨木停車場へは四哩三十一鎖とす。

〔茨木〕 此處は曾て片桐且元の治下たりしところ。驛の東北十餘町に總持寺あり、西國巡禮二十二番の札所にして、豐臣秀頼の再建に係る。その西北二里ばかりに勝尾寺あり、寶龜年間の建立、西國二十三番の札所とす。

〔高槻〕 高槻は舊永井氏の城下なり。此處より半里ばかりの北方には有名なる古曾部焼を産す。古曾部村には能因法師の塚あり。廣瀬村には水無瀬の宮あり、後鳥羽、順徳、土御門の三帝を奉祀す、廣瀬

(哩四)

(鎖五哩四)

に近き櫻井驛は、楠公父子の袂別せしところ、その名千載の歴史に香りぬ。

(鎖七十五)

『君のためとて眞丈夫が、四條畷に散る花は、櫻井驛のいましめを、まもりて薫ばし菊の旗』。

〔山崎〕 こゝは水色桔梗と千成瓢の旗さしもの、馳違ひ入亂れたる大山崎の古戦場にて、羽柴明智の先鋒が此處を先途と争ふたる天王山は停車場の北にあり。山崎は又た明治の初年會津桑名の藩士が、薩長の士と接戦せしところにして、こゝより淀川を隔てし對岸には官幣大社男山八幡宮あり、歴史にいふ石清水の八幡宮は此處なり、貞觀二年の創建に係る。

(鎖十六哩四)

〔向日町〕 驛より西方一里に長岡の天満宮あり、菅公の影姿を祀る、社内の池には躑躅滿つ。長岡の北十餘丁に粟生の光明寺あり、その西

〔京都〕

南一里ばかりに柳谷の觀音あり。京都へ四哩七鎮。川市街の中央を貫流す、市街は東西凡そ一里、南北一里半、戸數十萬、人口四十萬と稱す、全市二區に分れて、その三條通り以北を上京區とし、以南を下京區とす、維新以來帝都を東京にうつされてより稍昔日の繁華なけれど、風光は猶依然として山紫に水明らかなり。いざやこゝには先づ七條停車場(即ち京都驛)より各地に到る里程を記さむ。

(一哩三十六鎮)

禁裏御所 三十丁	二條離宮 二十五丁	下賀茂 一里六丁
上賀茂 二里	北野天神 一里二丁	仁和寺 一里十丁
卅三間堂 十丁	金閣寺 一里七丁	西大谷 二十四丁
三條大橋 廿四丁	銀閣寺 一里十丁	八阪神社 二十七町

四條大橋 二十丁 大徳寺 一里廿丁 東福寺 十四丁
 西本願寺 九丁 相國寺 一里六丁 東寺 十三丁
 東本願寺 三丁 智恩院 三十丁
 さすがに花の都とて到るところに名勝あり、古跡あり、その上京區には禁裏御所あり、永祿年間修築後今日までもその規模を變せず、面積二十五萬坪、周圍に廓を築き、内廓あり、外廓あり、その内廓には紫宸殿あり、清凉殿あり、門には承明門あり、日華門あり、月華門あり、南方に仙洞御所あり。三條大橋は鴨川に架したる三大橋の一にして、長さ六十三間、幅四間、天正年間豊太閤の命によりて、増田長盛の架設せしところ、欄干の擬寶珠は紫銅なり。橋の袂に京都府の里程元標あり。この二條より三條に至る間は所謂木屋町の市街にして樓々櫺比して水に臨む、市街の北西には西陣あり、

本邦織物の産地とす。もしそれ上京区内に有名なる神社佛閣を擧ぐれば、惟任光秀が主君を害せし本能寺あり、足利義満が建てたる相國寺あり、臨濟五山のひと稱す。御靈社あり。下御靈社あり。白峰神社あり。和氣清磨が護王神社あり。さてまた下京区内の佛閣には、東西本願寺あり。本國寺あり。佛光寺あり。六角堂あり。壬生寺あり。東寺あり。興正寺あり。東本願寺は眞宗大谷派本山にして、その殿堂は壯觀を極め飛驒の内匠を盡したる枳穀邸には小堀遠州が好みの後園あり。西本願寺は即ち眞宗本願寺派の本山にて天正年間大阪石山の地より移りしもの、殿舎また宏壯なり。本國寺は曆應年間鎌倉より移りし日蓮宗の本山。佛廣寺は天正年間山科より移りし眞宗佛廣寺派の本山、興正寺はこれ眞宗興正寺派の本山なりしが昨冬火を失せり。六角堂は延曆以來の古刹にして活花の先達

池之坊の古蹟とぞ。またこゝに下京区内の遊廓を擧ぐれば、三條より四條にかけて先斗町あり。むかし義經辨慶の初見參の五條の橋に沿ふて七條新地あり。市の西端には島原の遊廓あり。さらに鴨川を東方に渡りて洛東の名勝を探れば、蒲團着て寐たる姿の東山三十六峰あり。おもひぞ出る雪に名高き圓山公園あり。日の岡より南禪寺に至る間にイングラインあり、山上舟を往來せしむ。山端の東方には修學院あり。もしそれ神社佛閣の見るべきものをいへば、通天の紅葉に名高き東福寺あり。四條天皇以來御陵の地たる泉涌寺あり。帝國博物館につゞきて三十三間堂あり。朝鮮征伐の紀念をこめし耳塚の傍には豊大閤の建立せし方廣寺あり。世々の法親王が遺跡の妙法院あり。その庭を滴翠園といふ。音羽の瀧に名高き清水寺あり。その西南に清閑寺あり。臨濟五山のひと呼ばるゝ建仁寺あり。豊公

の夫人北政所が建立の高臺寺あり。洛東第一の巨刹として鷺張の廊下に名高く傘に名高く鐘に名高く華頂山知恩院あり。天臺三門跡の一といはるゝ粟田青蓮院あり。三井寺門主の隨一と稱する聖護院あり。むかし石川五右衛門がこの山門に住みしとぞいふ南禪寺あり。足利八代義政が華奢を極めし銀閣寺あり。永観堂あり。若王寺あり。黒谷あり、眞如堂あり。また官幣中社八阪神社あり。吉田神社あり。吉田が岡は古來より春は躑躅、秋は紅葉の名所として鳴るその傍には第三高等學校あり。京都大學あり。八阪神社は素盞鳥尊を祀る、例年七月の祭禮は關西一の祇園會にして大阪の天神祭と並び稱せらる。これより西方、四條の大橋に出る間は、歌舞の巷の祇園町なり。四條の大通りは京都の銀座通りにて、その積は京の夏を、代表したる夕涼の本場所なり。さてまた市の北西部をいへば、

上賀茂神社あり。下賀茂神社あり。三宅八幡宮あり。紫野には一休開基の大徳寺あり。舟岡山には織田信長を祀れる建勳神社あり。北部には三代將軍足利義滿が豪華を衒ひし金閣寺あり。つゞきて平野神社あり。菅公由緒の北野天満宮あり。禪宗臨濟派の本山妙心寺あり、その他名勝古跡に富めること枚擧に遑あらず、名産には西陣織、友仙染、刺繡、粟田焼、清水焼、紅白粉などあり。三千年の歴史を讀みて、この地に生れし傑物を見れば、經世家に熊澤蕃山あり。儒者に伊藤仁齋、林羅山、山崎闇齋あり。桑門に親鸞上人あり。畫家に土佐光信、土佐光起、相阿彌、狩野元信、狩野探幽、尾形光琳あり。劔工に來國吉、三條宗近、粟田口國友あり。甲冑工に明珍宗介あり。げにや一千年の古帝城、として懷古の袂を絞るもの豈たゞに吾人のみならんや。

〔稻 荷〕 京都より電氣鐵道に乗れば伏見に達す。その間に有名なる稻荷神社あり、驛はその社前に立つ。社は延喜八年の創建にして倉稻魂命、素盞鳥命を祀る、月ごとの午の日には信仰の男女こゝに群集す。山科驛に至る間に醍醐寺あり。

〔山 科〕 こゝに大石良雄が隠棲の跡あり、今は寺院となつて存す。深草少將の住にし跡は鶉の聲淋しく、小町の塚の近傍は秋草露に伏す大谷驛へ三哩二十七鎮

〔天 谷〕 こゝは近江と山城の境にして、驛は逢阪山墜道の入口にありこゝより大津に出る間に、むかし博雅の三位が訪れし蟬丸閑居の跡あり。和歌に上りし關の清水、さては關寺小町が古迹もありといふ

〔馬 場〕 驛は大津の東端馬場にありこゝより二十丁にして大津町の中央に出る瀧車の便あり、大津は滋賀縣廳のあるところ、戸數六千、

人口三萬四千、市街繁盛なり、近時琵琶湖疏水の工成り、京都との間に舟楫の便あり、また湖上漁船ありて大津波止場を起點とし琵琶湖に浮びて彦根、長濱に達す。馬場驛より三丁なる膳所は舊本多氏の城下にして有名なる膳所の城は、今毀たれて監獄署となりぬ。膳所より勢田橋本に至る街道には粟津の松原あり、元暦のむかし木曾義仲の亡びしところ、『源平盛衰記』に曰く、『……比は元暦元年正月廿日の事なれば、峯の白雪深くして谷の氷も解けざりけり、向ひの岡へすぢかひにと志し、つらゝ結べる田を横にうつほごに、深田に馬を馳入れて打てごもくゆかざりけり、馬も弱り主も疲れたりければ、とかくすれごも甲斐ぞなき、木曾は今井やつやくと思ひつゝ、うしろへ見返りたりけるを、相摸國の住人石田小太郎爲久が能引て放つ矢に内兜を射させて、眞額を馬の頭にあてようつぶしに

伏しにけり、爲久が郎等二人馬より飛でおり深田に入りて木骨を引落しやがて首をぞ取てける、今井是を見て、今ぞ最後の命なる、急ぎ御供に參らんとて進出で申しけるは、日來は音にも聞さけん今は目にも見よ、信濃國の住人中三權守兼遠が四男、朝日將軍の御乳母子今井四郎兼平なり、鎌倉殿までもよろしめしたる兼平ぞ、首とりて見參に入れよやとて數百騎の中に入れ入てさんぐに戦ひけれども、大方の剛のものなりければ寄て組むものはなし、たゞ開きて遠矢にのみぞ射ける、されども鎧よければ裏かゝす、あさまを射ねば手もおはず、兼平は箆に残る入すぢの矢にて八騎射おとしける、太刀を抜て申しけるは、日本一の剛の者の主人の御供に自害する、見ならへや東八箇國の殿ばらとて、太刀の鋒口にくはへ、馬よりさかさまにおち、貫きてぞ死にける』と、さてまた勢田の橋は勢田川

〔草津〕

の上流に架して、大橋九十六間、小橋二十三間あり、橋下の水は城州に入り宇治川となり、さらに河内より攝津に落ちて淀川となる。石山寺は瀬田橋より南方へ十丁ばかりにあり、天平勝寶年間、良辨僧正の開基とす、本堂の傍に源氏の間あり、こゝぞ寛弘年間紫式部が源氏五十四帖を草せし由緒の座敷とぞ、式部が遺愛の硯今もなほ寺の寶物たり、三井寺は大津市街の西方にあり、天安年間の建立、境内に辨慶の曳鐘あり、唐崎は大津の町盡頭より北方へ一里、こゝに唐崎神社あり、有名なる一つ松はその社頭に繁茂す。さらにもまた大津波止場より一里半には矢橋の里あり。膳所の落雁、粟津の晴嵐、勢田の夕照、石山の秋月、三井の晚鐘、辛崎の夜雨、矢橋の歸帆、これに比良山の暮雪を加へて世に近江八景と稱す。

〔津〕 驛は東海線と關西線の分起點なり、草津には名物姥ヶ餅あり

(四哩五十五續)

傳へいふ、六角義賢の亡ぶや、その子孫この地に落ちて代官となりしが、數代にして家衰へぬ、當時の主人死に臨みて曰ふ、あはれ今日、我子に残すべき餘財なし、これを先祖代々の紀念に見よと、幼なき一子に傳家の寶刀貞宗を附し、乳母に托して死せり、爾後その乳母は日毎に餅を嚙ぎ以て故主の忘形見を守育てぬ、これ乳母餅の紀原なりと、草津より西南十五丁にして野路の玉川あり、これ六玉川の一なり、『明日もこん野路の玉川萩こわて色なき波に月やどりけり』

〔野洲〕こゝは中山道の街道に當る、驛より東南一里には三上山あり近江富士といふ、俵藤太秀郷が海神に頼まれこの山の蜈蚣を射殺したりと、今に口碑に残れり、八幡驛へ五哩七十五鎮

〔八幡〕能登川へは五哩三十鎮

〔能登川〕河瀬驛へ四哩四十六鎮

〔河瀬〕こゝより彦根へ三哩と七十九鎮

〔彦根〕舊井伊氏の城下にして戸數三千五百、人口二萬三千、城は金龜山の阜にあり、今は陸軍の管轄となりぬ、またこゝより大津と長濱へ湖上漕船の便あり、近江鐵道もまたこゝを起點として關西の貴生川驛に達す。

〔米原〕琵琶湖に望みし、一小都會にして土地は湖面より高さこゝ僅かに三尺、されば線路の堤防高くして、そのフラットホームは停車場の階上にあり。この驛より右方に折れて長濱敦賀を指さすの線路あり、この邊りは琵琶湖の全景を望むべし、『帝國大地誌』に曰く、

「琵琶湖は其形琵琶に似たるを以て名づく、一に淡海と云ひ、又は鴉の海と稱す、海拔百メートル東西五里、南北十五里ありて周回は六十里、面積は八十一方に達す、最深の處は七八十メートルあり

(鎮二十六)

實に我が國第一の湖なり、世に稱す八百八水を受けて唯一の勢多川に依りて海に注ぐと、沿岸の地方は灌漑の利と漕運の便とを興ふる事大なるのみならず、又漁業の利少なしとせず、近年湖上に漁船を浮べ以て交通の便益を増進せり、特に湖岸の風景絶佳にして近江八景の名世に高し、湖中に奥島、沖島、多景島、竹生島の如き數嶼あり」と、口碑に曰ふ、むかし考靈天皇の御宇、この湖水一夜に成りて、その曉に駿河の富士を湧出したりと。

〔醒ヶ井〕 こゝより長岡まで二哩七十一 鎮。

〔長岡〕 柏原へは二哩五十 鎮。

〔柏原〕 馬場、醒ヶ井、柏原、いづれも太平記、「俊基朝臣が東下」

の詠に入りたる所なり。關ヶ原へは四哩三十四 鎮。

〔關ヶ原〕 關ヶ原は慶長年間石田三成が西國七萬の兵を擧げて徳川家康

(鎮二十四哩三)

が東軍十一萬の兵と天下分目の古戰場なり。關ヶ原また不破野と稱す。されば古歌に名高き不破の關屋の跡、今に存して大木戸と呼ぶ關ヶ原の西方一里半、今須村と長久寺村との間は、美濃と近江の國境にして、こゝに寐物語の古跡あり。

〔垂井〕 中山道の驛路に當る。こゝに北朝後光嚴帝が行在所の蹟あり

といふ。附近に南宮神社あり。大垣まで五哩三 鎮。

〔大垣〕 舊戸田氏の城下にして人口二萬、城趾は町の西北隅にあり、今は公園となりぬ。明治二十四年かの尾濃の大震災に遭ふて以來、市街の光景うたゞ昔日の觀なけれど、尙縣下第二の都會なり、揖斐川を下りて勢州桑名への通ひ船あり。町より西南三里には養老公園あり。山腹には養老の瀧あり、高さ殆んど十丈、幅一丈、あたりに楓樹多ければ秋の眺望また一入なり。

(鎮六十五哩八)

〔岐阜〕

市街は長良川に臨み、稲葉山を負ふ、人口三萬、岐阜縣廳あり。街衢の繁盛、商業の發達大に見るべきものありしに、震災以來一頓挫を來して、今は漸く恢復期にあるものゝ如し。市の東方に峙てる稲葉山は齋藤氏の居城なりしが、織田信長齋藤を滅ぼし尾州清洲より此處に移りぬ、その城徳川氏に及びて廢城となりて、今は麓に岐阜公園を設けられたり。さてまた岐阜の壯觀は、いふまでもなく長良川の鵜飼にして毎年五月上旬より始まり十月下旬に至る、夜ごとの篝火は天を焦して、漁舟の鵜を操れる、眞に濃州一の名物たるを失はず。

(鎮二十六哩四)

〔木曾川〕

驛は木曾川の近く黒田村にあり。木曾川は信州木曾の山奥より濃尾の國境を流れ、勢州桑名に落ちて海に入る、長さ四十六里。驛より四里、犬山町は舊成瀬氏の領地にして犬山城あり。城は小牧

十四哩三

(鎮三)

〔一ノ宮〕

の役に秀吉の陣せしところ、今なほ絶壁の上に天主閣を存せり。郡の名邑にして人口一萬四千、商業また繁盛なり、町の中央に國幣小社一ノ宮(眞清田神社)あり。清洲へ六哩三鎮。

〔清洲〕

むかしは尾州一の城市なりしが今は岐阜街道の驛路に過ぎず驛に近き清洲城趾は、かつて斯波氏の築きしところ、後、織田、徳川相繼ぎて此處に住みしが、徳川氏終に城を名古屋に移し、かば、たゞその趾に兩三株の老松、むかしながらに茂れるのみ。

(鎮三哩六)

〔名古屋〕

舊は浪越と書きぬ、東西兩京の間なれば中京と呼び、古來新潟と共に美人國の稱あり、慶長年間徳川忠吉封をこの地に受けし以來、世々徳川親藩六十二萬石の封土なりしが、今は帝國第四の大都會となりて戸數六萬、人口二十四萬と號す、市は東西一里三町、南北一里五丁、街衢整然として商賈軒を並べ、車場の往來織るが如

く、廣小路の通り尤も賑し、市内には東西兩本願寺の別院あり。東照宮あり。建中寺あり。櫻天満宮あり。大須観音あり。政秀寺あり。萬松寺あり。市の西北には有名なる名古屋城あり、城は天文年間織田信秀の築くところにして、加藤清正が細張になりしといふ、慶長年間徳川氏の此處に入るや大に規模を改め、五層の天主閣上を飾るに一双の金鯰を以てす、世にいふ黄金の鯰鯨なり、鯰の高さ八尺餘寸、胴の廻りて七尺三寸、相傳ふ、むかし強盗の張本柿木金助、身を紙鳶に縛して風のまに〜吹かれつゝ、この鯰の鱗一枚を得んとせしが、終に成らざりしといふ、城は今第三師團の本營となり、城外には練兵場あり。市の名産をいへば、織物、扇子、團扇を始めして提灯、漆器、及び七寶焼とす。市の西方一里、知多郡織豊村は、これ絶世の英雄豊太閤の生地にして、こゝに秀吉が肖像を安置す。そ

の近傍に加藤清正が邸趾あり。また市の西方二里には甚目寺あり、縁起に曰ふ、今はむかし此處は甚目龍磨といふ漁夫ありけり、一日網を投じて紫銅の觀世音を得たり、龍磨のために堂を修してその像を祀れりと。殿堂壯麗、賽者寺門に滿つ、寺より西方三里には津島神社あり、弘仁年間の建立にして素盞烏命、奇稻田姫を祀る、毎年陰曆六月の十五日には津島祭を行ふ、その前夜には町を流るゝ天王川に艦装せる樓船を浮べ、紅燈數萬盞を破つて樂を奏し、櫓拍子とづかに漕もく光景、また奇觀なり、さらに市の西北四里の小牧山は、天正年間織田氏の孤を擁して徳川家康が義戦の古迹にして、今は山翠をたると公園地となりぬ。關西鐵道線はこの愛知驛より、伊勢、伊賀を経て草津、奈良、大阪に向ふ、大阪驛を出でたる東海道線は、この驛までの延長哩程百二十一哩三十七鎮。急行列車六時間にして達す

尾西鐵道

(彌富、新一ノ宮間)

〔彌富〕…………〔佐屋〕…………〔津島〕…………津島神社…………〔六輪〕…………〔森上〕…………
〔萩原〕…………〔荻安賀〕…………〔新一ノ宮〕…………真清田神社



〔彌富〕 關西鐵道彌富驛より分岐し、新一ノ宮に至る、これを尾西鐵道線路とす、その延長十六哩、汽車はわづかに二時間ならずして往復す。

〔佐屋〕 津島驛まで三哩

〔津島〕 停車場より十町ばかり、津島神社あり、六月十五日は例年の大祭にして貴賤群集す、社殿莊嚴を極め社域また廣し、六輪へ一哩

〔六輪〕 驛を出で、四哩、森上驛あり。

〔森上〕 此處より萩原に至る、その間二哩とす。

〔萩原〕 この驛より荻安賀まで、わづかに一哩

〔荻安賀〕 新一ノ宮へ二哩

〔新一ノ宮〕 町の北端には真清田神社あり。この驛より東海道官線なる尾州一ノ宮驛に連絡す。尾西鐵道線この驛に終る。

關西鐵道 (本線)

(名古屋、湊町間)

〔名古屋〕…………〔愛知〕…………〔壱江〕…………壱江城址…………明眼院…………甚目寺…………
津島神社…………〔彌富〕…………〔長島〕…………〔桑名〕…………桑名町…………桑名神社…………
…天武天皇社…………法燈寺…………淨土寺…………本多忠勝の墓…………〔富田〕…………〔四日市〕…………四日市町…………波田城址…………湯の山温泉…………〔河原田〕…………〔高宮〕…………
…笠殿神社…………蒲櫻…………西福寺…………〔龜山〕…………龜山城址…………能褒野神社…………〔關〕…………鈴鹿の關…………關の地藏尊…………蝦夷樓…………筆捨山…………鈴鹿山…………〔加太〕…………〔柘植〕…………〔佐奈具〕…………〔上野〕…………上野町…………白鳳城

- ……芭蕉翁の古跡……鐘屋の辻……月の瀬……(島ヶ原)……(大河原)……
- ……惣谷神社……布市の炭酸泉……(笠置)……笠置山……第一門……地獄谷……
- ……福壽院……薬師石……彌勒石……文珠石……胎藏石……金剛石……
- ……虚空藏石……胎内寶……觀音谷……飛鳥路村……不動岩……平等岩……
- ……笠置宮址……(加茂)……みかの原……(大佛)……(奈良)……(郡山)……
- ……(法隆寺)……(王寺)……(柏原)……(八尾)……(平野)……(天王寺)……
- ……(今宮)……(湊町)……



(鎖八十二)

〔名古屋〕むかし柿木金助が紙鳶にその身を縛して、盗まんとせし金の鯨鋒、後に見て、漚車は、これより關西鐵道を馳せて湊町に入るその延長一百六哩六十七鎮、午前四時五十分名古屋を發する急行に乗ればその十時五十八分には湊町に着す、その間わづかに六時間と八分、これを東海道五十三次、はるぐ膝栗毛に鞭ちつゝ、幾度か雨に降られ、川に止められし苦艱に比せば、殆んど隔世の思ひあるべし。

〔愛知〕驛は名古屋の市街に連接す、蟹江の停車場へは五哩四十一鎮あり。

〔蟹江〕こゝは織田家の一族瀧川一益が、かつて城きしところ、その城趾今に存す、商業稍盛なり。驛の近傍、大治村には安養寺の古刹あり、延暦年間の建立にて今は明眼院と號す。甚目寺村には名高き甚目寺あり。津島なる津島神社は弘仁年間の勸請にして素盞鳥尊、奇稻田姬を祀る。

〔彌富〕舊は東海道佐屋廻りの驛にして、木曾川の沿岸にあり。尾西鐵道此處より出で、新一ノ宮に赴く、長島驛へ二哩四鎮。

〔長嶋〕驛より桑名に至る、その間、二哩四十九鎮。

〔桑名〕こゝは東海道の要津、揖斐川の下流に立つ、舊は松平越中

(鎖一十七哩四)

〔富〕

守が治所にして、その城趾今に存す、人口二萬、商業盛に、わけ米穀の取引尤も盛なり。附近には桑名神社あり、天武天皇社あり。西本願寺の別院法盛寺あり、寺は親鸞上人布教の舊蹟とぞ。清水町なる浄土寺は永承年間の建立、寺内に本多平八忠勝が墓あり。

〔四日市〕

勢州第一の良港にして伊勢内海に臨み、水深くして船を泊するに宜し、市街は三岳川に沿ひて運輸自在に、まかも商業の盛なること國中に冠たり、人口二萬五千、こゝより解纜の汽船は横濱に航し、熱田に渡り、大阪、神戸への便船もあり。近傍の濱田村には、應永年間田原氏が城きし濱田城あり、今は只土壘あるのみ。東南五里には湯の山の鑛泉あり、その名近郷に鳴る、浴客常に多し、山は海面を抜く一千尺、眺望絶佳なり。

(鎖三十二哩四)

〔河原田〕

こゝは國道の追分にて、本田氏が舊城下なる神戸の町へは僅かに一里、高宮驛へ四哩二十一鎖

〔高宮〕

高宮は、庄野と石薬師との中間に當る。近傍に笠殿神社あり傳へいふ此處は日本武尊が東征の砌、笠を捨てて埋めたまひし古迹なりと。また石薬師には蒲櫻あり、口碑に曰く、壽永のむかし蒲冠者範頼、この薬師に祈願の砌、折しも手にせる鞭を土中に挿しつゝ、急ぎ戰場に向ひしが、その鞭いつしか枝を生じて幾年の後に、見事の櫻香に匂ひ出しかば、誰いふとなく蒲櫻と名づけしとかや。また石薬師には有名なる西福寺あり。

〔龜山〕

關西鐵道の支線、こゝより分れて津驛に至る。龜山は舊石川氏の城下にして、むかし所謂五十三次の一なり、龜山城趾、能褒野神社など、この邊舊蹟多し。關驛へは三哩四十鎖。

(鎮八十二哩三)

〔關〕 こゝはむかしの鈴鹿の關の古迹、中古より單に關と呼び習は

しぬ、人口五千、有名なる關の地藏尊は九關山寶藏寺に立たせ給ふ

寺は天平年間行基菩薩の開基にして、地藏尊は一休和尚の開眼とい

ふ、寺内に蝦夷櫻あり。驛より西北一里ばかりに筆捨山あり、松と

石とによりて作られたる天然の景致は狩野古法眼をして筆を投せし

めたりと言傳ふ、勢州より江州への境には鈴鹿山あり、山は東海第

二の峻嶺とて、曾て田村將軍が山賊を塵殺せしところとぞ。

〔加太〕 驛より柘植驛に至る、五哩四十六鎮。

〔柘植〕 こゝより線路分れて草津驛に達す、亦た關西鐵道支線の一な

り。佐奈具の停車場へは六哩四十四鎮。

〔佐奈具〕 驛を發して上野驛に向ふ、その間二哩四十三鎮とす。

〔上野〕 上野は舊藤堂氏の分城地にして今もなほ白鳳城の跡あり、人

口一萬五千、商業盛なり、名産は、茶と木綿と傘を第一として、

靜馬蕎麥あり、靜馬餅あり、びにや上野は俳聖芭蕉の故郷にして雅

客の記憶に入り、渡邊志津馬が父の仇不俱戴天の澤井又五郎を討ち

たる古迹として俗人の口にも膾炙す、志津馬が仇を討ちたるところ

は鍵屋の辻に残り、芭蕉が住みし蘆舎は箋虫庵に存す、また上野公

園あり。上野より西南四里、白樫村より半里尾山の里に入れば、全

村悉く梅、これより奥は日本一の絶勝、月ヶ瀬の香世界にして、

到るところ皆梅花ならざるはなし。名張の川に舟を浮べて清流を溯

れば、兩岸悉く梅花、もしそた月明らかな夕、こゝに棹させば暗

香翳勃、疎影横斜、眞に仙境なり、赤目の四十八瀧へは七里とす。

〔島ヶ原〕 こゝより月ヶ瀬へは三里、道近しといへども馬の脊の難路な

れば、上野に下車するを順路とす、大河原へ四哩二十七鎮。

(鎮十四哩四)

〔大河原〕 驛より五町、には戀谷神社あり。また十丁にして布市の炭酸

泉あり。笠置へ三哩三十二鎮。

〔笠置〕 元弘のむかし後醍醐天皇蒙塵ましませしところ、驛の東方に

聳ゆ。藤堂藩の侍讀齋藤拙堂先生、かつて『笠置山陪遊の記』あり、

曰く『文政十年九月、我公例に依り鎮を上野城に移さる因て封を巡

り笠置山に上り故事を修す、山は城州に屬し、後醍醐帝蒙塵の處た

り、今我藩の封域に係る上野城の西五里にあり、十五日子夜、鶴

城門を出で、雙戟行を啓き、沿路炬を燃して晝の如し、臣諫、乏を

侍讀に受け筆を載せて従ふことを得たり、明るころ老幼途を夾み觀

て欣々然たり、十六日食時笠置に達す、邑屋稠密にして木津川を夾

む、館に入り餐を傳へて出づ、公獵服に更め布靴芒鞋にて步行せら

れ、群下服を均うして之に従ふ。山は南岸にありて水に臨み、曲折

(四 哩 十 鎮)

して琉璃屏の如し、川を渡りて之に就き、繞りて西北隅より盤廻し

て上る、入りて福壽院に憩ふ、此行、謙、圖書局に屬し太平記を齎

さしむ、乃ち之を取り公の爲に笠置の條を讀む、曰く三河の人足助

二郎重範城門を守り勁弓長箭を以て射て賊將二人を殲すと、此れ濶

に過ぎし所の阪上に雙石對峙する處とす、今仍ほ稱して第一門とす

るもの是なり、曰く賊陣に迫るに及び寧樂般若寺の僧兵累りに巨石

を以て賊に投ず賊の人馬齎粉す因て自ら潰散し積屍谷を填むと、此

亦城門の外に在り、其傍を今呼で地獄谷とす、以て相證すべし、

賊將陶山藤三、小見山二郎間道より行在を襲ふに至ると、曰く此を

山の東北とす。公乃ち左右を従へて院を出づ、門の側に懸鐘あり、

形甚だ古雅なり、建久の年の製に係る、銘文數十字あり、按ずる

に此寺は白鳳十一年の創置にして天平勝寶四年正月、堂を創す、

歴代修建し號して宏壯となす、建久中僧解脱といふもの、又股若臺を築く此鐘も亦當時の造る所なり、元弘兵燹の後及び舊に復すること能はず、獨り此鐘古物となる、僧に命じて之を敲かしむること數杵、聲鏗々然たり、杵止みて響騰る、曰く黃鐘の調なりと。護法祠を過ぎ左折すれば一大石あり、頽然として崖上に横はる、薬師石といふ、其西に彌勒石あり、皆高さ十丈許、濶さ之に稱ふ、其石の高さ其半に及ぶものを文珠石とす、舊と各佛像を鑄る、災に罹りて滅す、彌勒獨り頭に圓光を存す、文珠は漫劍して僅に痕跡を存するのみ、右折し佛像の下を過ぎて北すれば、胎藏、金剛の二石あり皆高さ四丈許、曲折して相連り、其開裂すること丈餘、欲然窟を成す、之を窺ふに深黒なり、其右に金剛に從ひて東面するもの虚空藏を鑄む、石の高さ略二石に等し、佛身之を專にし彫刻分明なり、尤

も奇偉とす。又北すること數十歩にして石門を得たり、門石の長さ六丈餘、兩傍の磐石疊起して之を承く、其下空洞、數人並び行くべし。左傍の一小洞入ること數十歩にして一竅を得、乃ち纒に出づ、兒の母體を離れたるが如し、呼びて胎内竅といふ、此間怪巖争ひ立ち、古木森鬱人をして凜然ならしむ、纒に石門を出づばれ豁然として山水暎るべし。太鼓石を過ぎ之を叩けば撃々と鳴る、其下を觀音谷といふ、實に賊の涉りし所の間路とす。謙、公の爲に東北の一村を指して曰く、此を飛鳥路村とす、柳生氏の封に係る、當時其民實に賊將を導き、此を經、襲ひて行營を陥る、本邑の民之を醜とし今に至るまで五百餘年婚嫁を通せず、言之に及べば唾罵す、臣嘗て之を土人に質し且つ問ひて曰く、今尙は然りやと、其人目を傾らし腕を扼して曰く、萬劫是の如きのみと、臣此を以て民心の義を好む

こと天性に出づるを知る、昔先君祐信公、來たり觀て之を嘉みし稱して義郷とし親しく古風一篇を製す、公の爲に之を誦す、公竦聽すること之を久うす、又西すること數百歩にして不動巖あり、巖半ば垂れて崖下に在り、而して平等巖其背に在り、公往て之を觀んと欲す、侍臣之を止む、數人を遣はし巖肩に攀ち匍匐して行く、峻嶮足を措き難し、號して蟻徑となす、徑を過ぐれば即ち平等巖なり、巖は坦平にして廣袤數丈、下絶壁に臨み、巖上の一圓石あり、高さ人領に及ぶ、重き數千斤ばり、手を以て之を撼せば則ち兀々として動揺す、而して終に轉すべからず、遂に従ひて行在の舊趾に登る中峰の最も高處とす、帝の楠公を夢み、及び楠公の上調して策を陳べしは蓋し皆此にありて、今唯老樹の鬱葱、榛莽の蕪穢を見るのみ之が爲に慨然たり」と、びにや六百年の古迹、行人此處を弔ふて腸

を斷てごも、山は昔時のまゝに黙して語らず。この川上には炭酸泉あり。

〔加 茂〕 線路はこの驛より走せて櫻の宮に達す、また關西線の支線なり。古歌に『みかの原』と詠めるは、この附近とぞいふ。大佛驛へ五哩三十三鎮。

〔大 佛〕 驛より奈良へは僅かに五十七鎮にして、停車場は奈良市一條通りにあり、大佛殿に近し。

〔奈 良〕 驛より郡山へ二哩七十六鎮。

〔郡 山〕 法隆寺へ四哩二十七鎮。

〔法隆寺〕 王寺へ二哩十九鎮。

〔王 寺〕 柏原へは五哩七十三鎮。

〔柏 原〕 八尾驛に至る二哩五十三鎮。

〔八尾〕 平尾へ二哩五十六鎮

〔平野〕 天王寺へは二哩三十四鎮

〔天王寺〕 今宮へ一哩二十九鎮

〔今宮〕 湊町へは七十六鎮

〔湊町〕 名古屋を出で、百六哩六十七鎮、要する時間は殆んど七時間

(急行は六時間)にして此驛に着す、奈良以後各驛に於る詳細の案内は乞ふ其項について見よ。

關西鐵道 (支線) (龜山、津間)

- 〔龜山〕……龜山町……龜山公園……龜山城……御茶屋山……能褒野神社……能褒野……〔下庄〕……〔一身田〕……專修寺……〔津〕……津市……三重縣廳……安濃津城址……津公園……高山神社……結城神社……八幡神社

……觀音寺……四天王寺

〔龜山〕 關西鐵道第三分岐線は、この線より起り、下庄、一身田の二

(三 哩 三 十 六 鐵)

驛を経て津に至る、延長哩程九哩五十二鎮、一時二十分間にして瀧車は往復す。龜山は東海道五十三驛の一にして、舊石川氏の城市なり、戸數二千、人口八千に上る。龜山公園あり、皇太神宮趾あり、また龜山城趾あり。御茶屋山あり。龜山城は天正年間岡本宗憲の築くところ、塹壘尙ほ存す。城北に連なりて起伏せる丘陵は即ち御茶屋山にて、風景絶佳、舊藩主の別墅あり、龜山驛より東北一里には能褒野神社あり、明治十二年の創建にして日本武尊を奉祀す、地は小高き丘にして、こゝぞいにしへの能褒野なりといひ、また國府村の西こそ、そのむかしの能褒野なりといふ。

〔下庄〕 たゞ一小村落のみ、名所古跡の記すべきなきし、一身田へは四哩六鎮

〔一身田〕 參宮別街道に當りて、人口五千と稱す。村内に眞宗高田派の總本山あり、専修寺といふ、見眞大師の開基にして寺號は後堀河天皇の賜はりしものとぞ、祖師堂の左右には菩提樹あり、杖垂柳ありいづれも大師手植の樹なりと言傳ふ、勢州第一の互利にして參詣常に多し。

〔津〕 伊勢灣の西岸、阿漕が浦に臨みて、戸數七千、人口三萬に上れる繁華の市街、これを津市とす、また安濃津といふ、舊は藤堂氏三十二萬石の城下、今は三重縣廳の所在地にして、勢州第一の都會とす、土地の名産は綆子を第一として縞木綿これに次ぐ。市街の南方には安濃津の城趾あり、内曲輪の殘礎尙ほ存す、城は永祿年間

(鎮十哩二)

りよ驛山總)

(鎮二十五哩九)

細野藤敦が城さしもの、徳川氏の代には藤堂氏の領なりしが、今は毀たれて陸軍省の所轄となりぬ。市街の北部には津公園あり。園内に高山神社あり。社を廻りて櫻樹あり、躑躅あり、以て風致を添ふその他市内に結城神社、八幡神社、觀音寺、四天王寺等、皆有名の神社佛閣なり。參宮鐵道線此處より分れて山田に走る。

參宮鐵道

(津、山田間)

- 〔津〕……………津市……………〔阿漕〕……………阿漕の浦……………阿漕平次祠……………芭蕉翁の碑……………
- ……………〔高茶屋〕……………久居町……………桃木……………〔六軒〕……………雲出川……………〔松坂〕……………松坂町……………
- ……………松坂公園……………意慶神社……………南龍神社……………本居神社……………〔徳和〕……………
- ……………榎田川……………〔相可〕……………千鳥ヶ瀬……………齋宮花園……………〔田丸〕……………〔宮川〕……………
- ……………〔筋向橋〕……………〔山田〕……………山田町……………古市……………油屋……………高倉山……………豐受皇太神宮……………
- ……………皇太神宮……………神路山……………朝熊山……………金剛護寺……………朝熊神社……………
- ……………二見ヶ浦……………

〔津〕

關西鐵道龜山驛より分れし支線は、この津驛に終り、更らにまた參宮鐵道線は、この驛より起つて山田に赴く、その延長二十六哩十鎖。津は舊と藤堂氏三十二萬石の城市にして人口三萬三千、商工業共に盛に一國の都會たり。

〔阿漕〕

名高き阿漕の浦は此の邊の海濱をいふ、松青く水線にして風景よし。口碑にいふ、むかし阿漕の平次といふものあり、一夜禁制を犯してこの浦に網を入れしかば、罪科のかるよによしなく、果は簀巻となりてこの海に沈められしとぞ、今にその靈を祀れる小祠あり。近傍に芭蕉翁の碑あり、刻して曰く『月の夜になにを阿古木に啼く鳥』。

〔高茶屋〕

驛の西方には舊藤堂佐渡守が領地の久居町あり、初瀬と伊賀

(鎖四十四哩二)

〔六軒〕

この街道に當る。附近に桃林あり。六軒驛へ三哩四十五鎖。松坂まで三哩と三十二鎖。その間には史上に名高き雲出川の流あり。

〔松阪〕

こゝは舊紀州家の城番地にして、和歌山、熊野、兩街道の要路に當り、商業盛に運輸便なり。有名なる松坂木綿、壺屋の烟草入こゝに産す。國學の大家本居宣長翁はこゝに出で、豪商三井氏も此處より出でぬ。殿町には松坂公園あり、眺望に富む、園中に意斐神社、南龍神社あり。花園村には本居神社あり。

〔徳和〕

驛の南方を流るゝ櫛田川は、古歌に上りしところなり。相可驛へは三哩四鎖。

〔相可〕

近傍に千鳥が瀬あり、眺望頗るよし、花苜蒲に富める齋宮花園あり。田丸驛へは四哩二十七鎖。

(鎖八十六哩一)

〔田〕 丸

宮川驛に至る二哩四十三鎮とす。

〔宮〕 川

こゝを出で、筋向橋に向ふ、一哩二十九鎮。

〔筋向橋〕

山田まで僅かに一哩と九鎮。

〔山〕 田

山田は宮川の東岸にあり、市街は宇治に連なる、伊勢の兩宮

に詣づるの順路なれば、市街繁盛なり、人口三萬に上る。町につ

ける花街は即ち古市にして、『伊勢音頭』の劇に上りし、かの妓樓

『油屋』は旅館となりて今に存す。町の南、山田ヶ原の丘陵高倉山に

は豊受皇大神宮を祀る、これを外宮とす、雄略天皇の御宇こゝに遷

坐まししくしと聞く、多賀の宮、土宮、月讀宮、風宮、これを四所

の宮として、末社八坐、接社十六坐、まかも宮域八十餘丁に亘り、

社殿また壯觀を極む、外宮より一里、宇治の五十鈴川上には皇太神

宮あり、宮は内宮と稱して宗廟の在すところ、天照皇太神を奉祀

し、天手力雄命、萬豐秋津師姫を合祀す、垂仁天皇の御宇、大和

國笠縫の里より此の川上に移しまゐらせぬ、爾來二千年、誰かその

神徳を仰がざるべき、御神體は八咫の御鏡と承る、宮域七十丁、

別宮には月讀宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈美宮を始めとして接社二十五

坐、末社十六坐とす、げにや皇國無二の靈域、『何事のおはしますか

ば知らねごもかたじけなさに涙こぼる』宮の東南に丘陵あり、神

路山といふ。山田より二里、朝熊山あり、伊勢内海を隔て、遠く駿

河の富士を雲烟縹渺の間に望む、山頂に金剛證寺あり、山麓には朝

熊神社あり。また山田の東方二里、音無山を負ひ、伊勢灣に面する

ところを二見の浦とす、海岸には二個の巖石屹立して一は二丈八尺

一は一丈二尺、その間に注連を曳く、見よ、天の一角やうく、曉

の色を帯びつゝ、浪路はるかに一條の紅を呈して、蒼く黒き二つ岩

の真中央より、朝暾遅々として上り來るの景、眞に壯觀を極む。津より起りし參宮鐵道線、この山田に終る。

關西鐵道(支線) (柘植、草津間)

- 〔柘植〕……〔深川〕……廣德寺……飯道神社……〔貴生川〕……〔三雲〕……
- ……三雲神社……善水寺……〔石部〕……石部神社……東寺……西寺……
- 〔草津〕

〔柘植〕

山間の一小村なれど、伊賀の上野と、伊勢の關との追分に於て旅客の此處に集まるもの頗る多し。關西鐵道の支線、こゝより出で、草津に達す、延長二十二哩四十九鎮。深川驛に至る七哩六十六鎮とす。

〔深川〕

上野街道に當りて水口驛へは二里餘、稍繁華なり、驛の西方

(鐵四十五哩一)

〔貴生川〕

一里餘の廣德寺は、延暦年間の建立にして俗に甲賀の庚申堂といふ傳へ曰ふ、むかし村民何某、夢想によりて眞鍮の製法を感得す、技今に傳へて四隣その業を營むもの多しと。その附近に甲賀の總社たる飯道神社あり。

驛より分れて彦根に達する線路あり、これを近江鐵道とす、三雲驛へは三哩と十八鎮。

〔三雲〕

驛は石部と水口の中間に位し附近は松茸の名産地なり。三雲は垂仁天皇の御宇天照太神、大和より伊勢に遷坐の砌、まばし鎮坐ましませしところとて今に三雲神社あり。驛より南方一里、岩根山には善水寺あり、傳教大師の開基にして身丈一寸八分の薬師如來を安置す。

〔石部〕

「石亭一夜枕頭夢、散爲桂川渡場烟」。芝居に演じ淨瑠璃に入

(五哩三十八鐘)

るお半長右衛門が浮名を流せしは此處とぞ、東海道五十三次の一にして人口四千餘、往來今に繁し。近傍に東寺あり、西寺あり、共に聖武天皇の勅願所とて有名の巨刹たり。石部神社には倭姫命を祀る。

〔草津〕むかし東海道の道中筋に當りし名邑、今は關西線と東海道線の連絡點たり。此處を東海、中山兩道の追分とす。柘植驛より瀧車に乗れば僅かに一時間半にして此驛に入る。

關西鐵道

(加茂、網島間)

- 〔加茂〕……鴨神社……みかの原……〔新木津〕……和泉式部の塚……藤原百川の墓……〔祝園〕……〔田邊〕……新一休寺……〔長尾〕……石清水八幡宮……王仁の墓……〔津田〕……倉治の桃……倉治の瀧……〔星田〕……〔四條畷〕……四條畷神社……野崎觀音……〔住道〕……官幣大社牧岡神社……牧岡梅林……

- ……孔舍衛阪……生駒の聖天……瓢箪山……〔徳庵〕……木村重成の墓……



〔加茂〕驛より折れて網島に達する線路あり、亦た關西鐵道の支線なり。

延長三十二哩七十二鎮。この驛を出で、瀧車は新木津驛に向ふ、その間三哩六十五鎮とす。加茂には京都市上加茂の本社といひ傳ふる鴨神社あり、古歌に名高き「みかの原」へも遠からず。

〔新木津〕こゝには王朝の閨秀榮華物語の作者として世に歌はるゝ和泉式部の塚あり。社稷の忠臣和氣清麿を救ひし藤原百川の墓あり。祝園驛へ二哩六十六鎮。

〔祝園〕田邊驛まで四哩四十鎮あり。〔田邊〕驛より十丁、新一休寺あり。長尾驛に至る、その間三哩七十

七 鎮

〔長尾〕 こゝより石清水八幡宮へ二里、難波津の梅を詠ひし王仁の墳墓へ僅かに六丁、而して津田の停車場へは一哩と七十七鎮

〔津田〕 この邊、桃に富む、有名なる倉治の瀧も近し。瀧車は此處より星田に向ふ、其間三哩二十三鎮

〔星田〕 次なる驛は歴史に名高き四條驛とす。

〔四條驛〕 星田驛より三哩三鎮にあり。こゝは正平四年、小楠公が忠死の古蹟にして、その飯盛山には公が靈を祀れる四條驛神社あり、驛より九丁、また夫の『歌祭文』の淨瑠璃に出でたる丁稚久松が親人久作の住家は此處等あたりなるべく、野崎の觀音今も參詣多し。

〔住道〕 こゝより官幣大社牧岡神社へ一里、この社は河内の一ノ宮にて遠く神武天皇の御宇、こゝに創建なりしものごとぞ、社殿莊嚴なり

(鎮七十哩二)

社の背後は牧岡の梅林とて其名近郷に鳴る。この邊は所謂る古昔の孔舎衛阪なりといふ。生駒の聖天へは二里。瓢箪山稻荷へは一里二十丁とす、瓢箪山の辻占については、かつて畫伯下村爲山氏の記あり、曰く『瓢箪山は中河内郡牧岡村(元四條村)にあり、大阪玉造より奈良街道を東に行く事三里にして南北に通ずる京街道との交叉點がある、その辻より東街道を數丁南に行くこと左側に一間四方位の石橋がある、その突當りが本社だ、社殿の結構は甚だ狭小なれども繪馬堂などもありて相應に立派だ、本社の左右にある饅頭形の築山が即ち瓢箪の形をして居ることだ、橋と本社との間は一丁程ありて宿屋その他飲食店が軒を連ねて居る、大分小づらのはげた女共も見えて頻りに客を呼でゐる、ごこやらに三味線の音もする、こゝは全く本社の爲に田甫の中に一市街をなしてゐるのである、毎戸辻

占入の土産物を賣てゐるが、それは其半分づゝ紅白に彩つた瓢箪形の小さなかるやきであつて、五六個づゝ昆布の紐でしばつて竹の竿に澤山ぶら下げてある、然し製造元は大坂ぢやさうな。「占をし

ていたゞきたいです。「闇を引てきましたか。「引きました。闇箱は階段の左側に在て唐金製の一尺程の圓筒で一本足の立派な臺の上に鎖でしばつてある。「何番ですか。「何番だか分りませんが何でも筋が一つ引てあつたやうです。「それは一番ぢやそれぢやア表の橋の處へ行て一番最初に通る人の男女とか風體とか持物とか談話の模様などを觀て來なければならぬ。「ハアさうですか然し何か別に書たものは無いのですか。「そんなものは無い此處は日本國中に響いて居る瓢箪山の辻占といふて辻の出來事を以て判斷するのでそれで辻占なんじや。「ハ、アナアール程。元來參詣人は夜分が多いので午

前の二時か三時頃は例の橋のほとりに潜で居て通行人の話などを聞き取り、それを以て判斷して貰ふのが本筋だとの事で、その出來事が皆お稻荷様の業であるげな」と。

〔德 庵〕 元和の役に天晴れ武士の龜鑑と世に惜まれて花と散つたる木村長門守が 永に眠れる墓は驛より一里半、露繁き叢間にあり。放出の停車場へは一哩十三鎖。

〔放 出〕 線路は此處より二條となり、網島へと片町に向ふ、その片町へ向へる線路はたゞ貨物運搬の用に供するのみ。網島驛へは二哩四十一鎖。

〔網 嶋〕 舊は關西鐵道の起點なりしが、今は湊町驛と變りてこゝは支線の起點地となりぬ。櫻の宮に近く、大阪城の薨を望む、造幣局、水道水源地、泉布觀、皆指呼の間に見ゆ。

奈良鐵道

(京都、奈良、櫻井間)

- 〔京都〕……〔伏見〕……伏見町……巨椋の池……井手玉川……〔桃山〕……
- 桃山城……墨染寺……墨染櫻……深草少將の舊蹟……少將井……少將塚……
- 小町塚……〔木幡〕……黄檗山萬福寺……〔宇治〕……宇治町……平等院……
- 宇治川……縣神社……橘姫の祠……〔新田〕……〔長池〕……〔玉水〕……
- 井手左大臣の舊蹟……〔柳倉〕……高倉の宮址……盤満寺……〔上狛〕……
- 〔木津〕……高瀬の里……大智寺……哀堂……平重衡の塚……誓願寺……
- 和泉式部の墓……〔奈良〕……〔京終〕……〔帶解〕……〔櫻本〕……柿本人麿の墓……
- 〔丹波市〕……石上神社……天理教會本部……〔柳本〕……柳本櫻……
- 〔櫻井〕……多武峯……談山神社



〔京都〕 七條驛を起點とし奈良驛を経て櫻井驛に達するもの、これ奈良鐵道なり。七條より伏見驛へは三哩と二十一、鎮。

〔伏見〕 東海道線稻荷停車場の東方半里あまりにあり、人口二萬、宇

(鎮九哩一)

治川下流の北岸に位し水運の便あり、むかし三十石船の舟歌聞わしところ今は漁船の笛聲となりぬ、市街を出て南方には巨椋の池あり。その邊りに井手の玉川の古跡存す。

〔桃山〕

文祿年間豊公が城きしところ今は只その殘墟を見るのみ、岩垣松苗かつて一絶あり、曰く『丹樓昔日麗似霞、今見山桃萬株花、

追憶豊公功業大、黄金爲薨亦非奢』と、今は桃よりも梅花多し、近傍の墨染寺には墨染櫻あり。鶉啼くなる深草少將の舊蹟あり。少將井あり。少將塚あり。小町塚あり。

〔木幡〕

附近には黄檗派の總本山なる萬福寺あり。徳川四代の將軍家綱公が命を奉じて、時の碩徳隱元和尙の開基せしところ、境内の莊

嚴比するもの尠し。宇治驛へは二哩五十五鎮。

〔宇治〕

此處は日本一の茶所とて唄はるところにして盛にも名高し、

(鎖三哩二)

村の東端には源三位頼政が扇の芝の平等院あり。驛に近く縣神社あり、橋姫の祠あり。元暦のむかし梶原、佐々木が先陣を争ふたるは此處の末流とす。

〔新田〕驛より長池に至る二哩三十一鎖〇

〔長池〕次なる玉水驛まで三哩二十二鎖とす。

〔玉水〕此處には井手左大臣橋諸兄公の館ありとぞいふ。棚倉驛へ一哩七十鎖〇

〔棚倉〕驛の傍には治承のむかし以仁王の住ませたまひし高倉の宮趾あり。蟹満寺あり。上狛驛へ一哩五十五鎖〇

〔上狛〕驛より木津に至る其間一哩五鎖とす。

〔木津〕大和街道に當る、舊高瀬の里と呼びぬ。東方二丁に大智寺あり。その南方なる衰堂のうちには、こゝに斬られし三位中將重衡が

哩四)

(鎖五十三)

塚あり。また東南の誓願寺には小野篁作の地藏尊あり。附近には和泉式部が墓あり。

〔奈良〕ふるき昔時の青丹よしの都、春ごとの花は今も古昔のまゝに勾へど、早や千二百年の夢となりぬ(委しきは關西線を見よ)、京終驛へ一哩と五鎖〇

〔京終〕帶解驛へは一哩六十八鎖あり。

〔帶解〕この驛より樺本に至る、一哩四十五鎖〇

〔樺本〕驛より二丁にして歌聖柿本人麿の墓あり。こゝより丹波市へは一哩四十六鎖とす。

〔丹波市〕石上神社は驛より十丁を隔つ、三千年の古社神寂ていと壯嚴なり。またかの幹女とかいふ老嫗によりて浴く日本全國に唱導されつゝ、今日にては其信徒百萬と稱する天理教會の本部は驛の附近

(鎖十六哩一)

五丁ばかりの所にあり。

〔柳本〕 柳本櫻へ僅かに五丁。櫻井へは一哩九鎮。

〔櫻井〕 郡の名邑にして市街繁盛なり。多武峰へは一里半、山腹には鎌足公を祀れる談山神社あり。七條驛よりこの驛に至る延長三十八哩十五鎮とす。

京都鐵道 (京都、園部間)

〔京都〕……〔丹波口〕……島原遊廓……西本願寺……東寺……六孫王神社……壬生寺……〔二條〕……〔二條離宮〕……神泉苑……大極殿遺址……〔花園〕……御室仁和寺……高雄……梅尾……〔嵯峨〕……小督局墓……天龍寺……大覺寺……清涼寺……大堰川……渡月橋……嵐山……戸無瀬の瀧……千鳥ヶ淵……保津川……嵯峨の虚空藏……小倉山……落柿舎……清瀧……空也の瀧……愛宕山……月の輪寺……大森廣隆寺……〔龜岡〕……矢田神社……穴太の觀音……應譽寺……櫻天神……能勢妙見……〔八木〕……〔園部〕……

〔京 都〕

七條驛を起點として、丹波口、二條、花園、さては男鹿鳴くなる嵯峨より、龜岡、八木の各驛を経て丹波の園部驛に達するものこれを京都鐵道とす。

〔丹波口〕

此處は京都市内千本通の南端にして島原遊廓に面せしところ近傍には西本願寺あり。東寺あり。六孫王神社あり。壬生寺あり。丹波への要路なれば丹波口といふ、壬生菜を名産とす。

〔二 條〕

停車場は二條の離宮より四丁ばかりの西方にあり。離宮は古昔の二條城にして、かの小野小町が雨を祈りし神泉苑はこの邊りにありといふ。近くには大極殿の遺趾あり。

〔花 園〕

驛に近きところに御室仁和寺あり、仁和寺は光孝天皇の仁和年間創建せられし以來、明治維新に至るまで、世々の法親王が垂

(續八哩)

跡の由緒あり。高雄 根尾に到るは此處よりするを願路とす。高雄は名に高き紅葉の勝あり、根尾また茶に名あり。

〔嵯峨〕

こゝは琴の音の松吹く風に通ふて寮の駒や嘶なきけむ小督局が隠れ家の古蹟、五輪の塔に苔むして佳人の夢を語るに似たり。停車場より一直線に三丁ばかり天龍寺の山門に達す。天龍寺は夢窓國師の開基にして臨濟宗五山の一つ、新たに建し本堂の天井には松年畫伯の筆に成りたる龍の畫あり、墨を費やすこと三斗、以て其いかに大なるかを想見するに足る。嵯峨には洛西の名刹と呼ぶる大覺寺あり。清涼寺あり。大覺寺は曾て嵯峨天皇の離宮と定めましとこころ。清涼寺は即ち嵯峨の釋迦堂なり。天龍寺の南方、大堰川に架れる橋は詩歌に上り畫圖に入りたる渡月橋にて橋の向ふには名に高き嵐山あり、満山これ櫻樹、春咲く花は俗物を狂はしめ、秋を彩る櫻

(續九哩七)

〔龜岡〕

紅葉は詩客の腸に入る。山の麓に戸無瀬の瀧あり。山の徑に沿ふて進れば千鳥ヶ淵の勝あり。大堰川の流れば此處より保津と呼びて上流は即ち怪巖奇石、水これに激するの勝絶能く筆紙の盡すところにあらず。これを溯れば丹波の龜岡に達す。また渡月橋の南方には法輪寺あり、所謂る嵯峨の虚空藏にして俗人か十三詣りをなすところ。さらにまた天龍寺より愛宕清瀧に赴く道には、定家卿が古蹟の小倉山あり。俳人去來が落柿舎あり。清瀧の奥には空也の瀧あり。愛宕の山腹には月の輪寺あり。この嵯峨驛より花園驛に歸る間に名高き太秦の廣隆寺あり。聖徳太子の建立にして有名の牛祭は例年この寺に行はる。

岡〕停車場附近には矢田神社あり。穴太の観音あり。應寧寺といふ金剛寺あり。櫻天神あり。かの有名なる能勢の妙見に參詣せんに

(哩五)

は、この驛より間道ありとぞ。保津の清流に舟を下せば、忽ち嵐山の麓に達す。

〔八〕

木 山間の僻地なりといへども、木材に富み、また石材に富む。名産は桑酒なりといふ、時季秋となれば、栗あり。柿あり。松茸あり。

〔園 (續十六哩三)〕

部 丹波一國の咽喉にして、木石材の産出夥し、鬼が住みしといふ大江山に因みて大江山酒といふあり。又た桑酒、唐板を出す。丹波の地、到るところに柿あり。栗あり。春は香魚の漁あり。秋は松茸に富む。酸漿。煙草。いづれも名産として數へらる。七條驛を出で、この驛に至る延長二十二哩十六鎖とす。

東海道線 (其二) (大阪、神戸間)

- 〔大阪〕……〔神崎〕……江口……〔西之宮〕……西之宮町……打出の瀨……
- 經子神社……曳山……猿丸大夫の墓……業平卿の邸址……廣田神社……
- 〔往吉〕……住吉神社……御影町……岡本の梅林……〔三の宮〕……生田の森……
- ……生田の神社……布引の瀧……布引温泉……摩耶山……〔神戸〕……神戶市……兵庫縣廳……湊川神社……福原遊廓……諏訪山……再度山……



〔大〕

阪 東京新橋を出でたる東海道官線は、此處より尙西方に走り、神崎、西の宮、三の宮の各驛を過ぎ神戸に達す。大阪を出で、四十八鎖にして神崎驛あり。

〔神〕

崎 驛より東北凡そ十丁、神崎川の西岸は所謂る古昔の神崎にして、むかし西國街道の船繋ぎ場なり、さればその頃の神崎は遊女の住みしところといへば、いかに繁華の巷なりけむ、今は戸數わづか

(哩四)

(續二十五)

に百廿戸に過ぎねば、あはれ往時の佛もなく、かの西行が訪ひしとぞいふ江口尼は何地にや住みけむこの邊と聞けど覺束なし。阪鶴鐵道はこの驛より東北に走る。

〔西の宮〕 戸數二千五百人口一萬五千、清酒の醸造を以て名高し。この邊りの海濱を打出の濱といふ。西の宮の町盡處に立たせたまふは西の宮の蛭子神社にして、毎年舊正月九日十日は福を授からんとて

怨に満ちたる善男善女群集し、社頭立錐の餘地なし。西北に兜山あり。この邊に歌人猿丸太夫の墓あり。むかし男の業平卿が邸址あり。また西の宮の市街より北方十二町に官幣大社廣田神社あり。天照皇太神を祀る。

〔吉〕 驛に近きところに名高き住吉神社あり。南方へ五六丁にして

御影の町あり、酒に名高く石に名高し。この驛より東北半里ばかり

(續一十二哩五)

〔三の宮〕 神戸への旅客その半分はこの地に下車す。驛より北方に五丁、岡本の梅林あり、春風春水一時に到つて梅花信を報ずるころは杖を曳くもの睡を次ぐ。

(續三十六哩)

生田の森あり。こゝに官幣小社生田神社あり。生田は古來幾度か歴史に上りし古戰場にして、阪東一の若武者梶原源太が筋の梅の名をとめしところ、小山田高家が主恩に感じて唯一騎ふみ止まり此處に健氣な討死とげしところ、源太が梅は生田神社の境内に残り、高家が屍は求女塚に埋められぬ。またこの三の宮驛より半里ばかりの北には布引瀧あり、瀑布は二條にして一を唯瀑とて直下七丈三尺、一を雄瀑とす直下十五丈。この邊りに布引温泉あり。さらに三の宮より一里半を隔て、摩耶山あり、山頂の天上寺は大化元年の創建にして十一面觀世音を安置し、別に摩耶夫人堂あり。

(續三哩一)

〔神〕

東海道官線は此の驛に終り、山陽鐵道は此の驛に起る、そも
 神戶は日本五港の一にして、西、和田岬より、東、小野濱に至
 る、灣内水深くして巨艦を容るゝに足る、市街は南方海に臨み北方
 山を負ふ、されば自然に東西に延びて戸數殆んど五萬、人口凡そ二
 十萬に上り其繁華横濱と相伯仲す、兵庫縣廳この地にあり。市内多
 聞通には、別格官幣社湊川神社あり、楠正成を祀る、嗚呼忠臣
 楠氏の碑は水戸黃門公の建設せられしものにして文は舜水朱之瑜が
 撰ぶところなり、境内に寄席あり參詣常に絶わす。その西方數丁は
 福原の遊廓にして夜を晝なる別天地とす。神戸の北方十二丁に諏訪
 山の温泉あり、山高からずといへども是に登れば兵庫神戸の市街は
 一望眼下にあり、割烹店には有名なる常盤あり。諏訪山につゞきし
 再度山には觀音堂あり、弘法大師こゝに再回登山せしより山の名に

(鐵七十二哩十二りよ驛阪大)

呼びしとかや。山陽鐵道はこの驛より連絡して蜿蜒西方に走つて下
 關に至る。

近江鐵道

(彦根、貴生川間)

- 〔彦根〕……………〔新町〕……………高宮……………多賀神社……………〔豊郷〕……………西明寺……………〔愛知川〕……………金剛輪寺……………百濟寺……………〔小幡〕……………五ヶ莊觀音寺……………〔八日市〕……………永源寺……………〔櫻川〕……………〔朝日野〕……………〔日野〕……………馬見岡神社……………山王神社……………〔水口〕……………水口城……………甲賀一揆の碑……………〔貴生川〕



〔彦根〕 (鐵八十哩一)

東海道線彦根驛より分れて南方するものを近江鐵道とす、彦
 根を起點として、新町、高宮、豊郷、愛知川、小幡、八日市、櫻川
 朝日野、日野、水口を経て貴生川驛に達す。その延長二十六哩一
 鎖なり。

〔新町〕 この驛より高宮まで一哩二十四鎮。

〔高宮〕 彦根の東南二里あまり、名高き多賀神社へ參詣するには此處に下車するを順路とす、多賀神社は創建の年月たしかならねど千年の古社といふ、境内廣くして老杉社殿を繞る、遠く琵琶湖を望みて眺望可。

(鎮一十二哩三)

〔豐郷〕 附近に西明寺あり。此處より愛知川驛へは一哩五十九鎮。

〔愛知川〕 この邊りに有名なる金剛輪寺、百濟寺など、いづれも見るに足る。小幡驛へ一哩五十三鎮。

〔小幡〕 此處に下車して五ヶ莊觀音寺へ詣づるも可。この驛より二哩七十五鎮にして八日市に達す。

〔八日市〕 この近くに有名なる永源寺あり、臨濟派の本山にして満山の楓樹、高雄笑面の勝に譲らず。此處より櫻川へ三哩五十一鎮。

〔櫻川〕 この驛より朝日野驛に至る其間二哩四十三鎮。

〔朝日野〕 此處より一哩四十三鎮を隔て、日野驛あり。

〔日野〕 附近の神社佛閣には、馬見岡神社あり、山王神社あり。松明寺あり。水口驛に至る其間三哩五十七鎮。

〔水口〕 水谷は舊加藤氏の城下にして、その城址今に存す。近傍には甲賀一揆の碑あり、郡中第一の名邑なり。貴生川驛までは二哩三十四鎮あり。

〔貴生川〕 彦根を起點としたる近江鐵道はこの驛を終點とし、更にまたこの驛より關西鐵道に連絡して東西に走るを得べし。

山陽鐵道 (神戸、宮島間) 宮島以西は略す

- 〔神戸〕……………〔兵庫〕……………築島寺……………清盛の塔……………平經正の琵琶塚……………長田神社……………和田岬……………〔鷹取〕……………忠度の墓……………那須與市の墓……………〔須磨〕……………須磨寺……………敦盛の塔……………光源氏の古蹟……………一の谷……………二の谷……………三の谷……………鐵拐ヶ峰……………〔鹽屋〕……………〔垂水〕……………遊女塚……………五色山……………〔舞子〕……………舞子濱……………〔明石〕……………明石城……………人丸神社……………〔大久保〕……………天郷の梅林……………金ヶ崎の梅林……………〔土山〕……………住吉神社……………手枕の松……………〔加古川〕……………加古の湊……………尾上神社……………尾上の松……………尾上の鐘……………片枝の松……………高砂神社……………高砂の松……………天竺徳兵衛の誕生地……………青野軍馬養成所……………〔寶殿〕……………石の寶殿……………〔曾根〕……………曾根天神……………曾根の松……………〔御着〕……………〔姫路〕……………姫路城……………書寫山……………圓教寺……………辨慶の學問所……………白圓の梅林……………増位の温泉……………飾磨町……………〔網干〕……………朝日山觀世音……………〔龍野〕……………龍野町……………野見宿禰の墓……………室津……………加茂神社……………〔那波〕……………赤穂……………大石良雄が邸址……………阪越港……………〔有年〕……………白旗城址……………〔上郡〕……………高嶺神社……………〔三石〕……………船阪山……………〔吉永〕……………閑谷學校……………〔和氣〕……………鷲の湯の温泉……………〔萬富〕……………〔瀬戸〕……………西大寺……………〔長岡〕……………關白屋敷……………武者屋敷……………〔岡山〕……………岡山市……………岡山縣廳……………偕樂園……………岡

- 山城……………後樂園……………宗忠神社……………〔庭瀬〕……………吉備津宮……………高松稻荷……………高松城……………藤戸渡……………〔倉敷〕……………下津井港……………小町塚……………瑜珈神社……………豪溪……………〔玉島〕……………玉島港……………吉備温泉……………圓通寺……………〔金神〕……………大谷金神社……………砂美海水場……………〔鳴方〕……………阿倉不動の瀧……………〔笠岡〕……………笠岡町……………廣瀨の温泉……………高鳴の行宮……………〔大門〕……………猪守神社……………〔福山〕……………福山城……………福山公園……………輛の津……………〔松永〕……………阿伏兔の觀音……………〔尾の道〕……………尾の道市……………千光寺……………西國寺……………淨土寺……………玉の岩……………〔糸崎〕……………長井の浦……………長井の水の古跡……………糸崎神社……………薄墨の松……………〔三原〕……………三原城……………大善寺……………宗興寺……………西野の梅林……………壬生忠孝の墓……………〔本郷〕……………小早川氏の城址……………米山寺……………土肥寛平の墓……………小早川隆景の墓……………〔河内〕……………大津の瀧……………竹林寺……………〔白市〕……………〔西條〕……………西條城……………〔八本松〕……………卜者篠村翁の閑居……………〔瀬野〕……………〔海田市〕……………吳港……………江田島……………海軍兵學校……………〔廣島〕……………廣島市……………廣島城……………廣島公園……………饒津神社……………泉邸……………宇品港……………〔横川〕……………横川村……………八木の梅林……………〔已斐〕……………〔五日市〕……………〔廿日市〕……………廿日市……………陶全姜の墓……………源範頼の墓……………〔宮島〕……………宮島……………嚴島神社



〔神戸〕 驛は東海道鐵道の終點にして山陽鐵道の起點なり。驛より一

〔兵〕

(二哩五號)

哩十鎮。楠公戦死の湊川を隔て、
 庫] 驛あり。此處は治承の昔、平清盛が都を神戸の福原に移せし以來、今も尚ほ殷賑の地なり、停車場の東方七丁ばかりに築島寺あり、縁起に曰ふ、清盛こゝに島を築く、風浪高くして成らず、童に大井松王といふものあり衆に代りて身を海底に沈め、人柱となりぬ、清盛その志を憐み、工成りて後一寺を建つ、築島寺是れなりと、寺近くに執權北條貞時が建てたる清盛の塔あり。塔に向ふて平經正が紀念の琵琶塚あり。西方十餘丁には長田神社あり、華表の額は小野道風の筆とぞ。またこの兵庫驛より東南二十丁にして和田岬に達す、こゝぞ延元のむかし中黒の旗と二つ引而の旗出宇巴と入亂れたる古戦場なり、今は夏日の海水浴場となりぬ。岬角に不動赤色の燈臺立つ。

〔鷹〕

(一哩十三號)

取] 驛より東方七丁には阪東武者の六彌太に首を賜ひし忠度卿の墓あり。西北二十八丁を隔てゝは扇の的に一期の功名唄はれし那須の與市が墓あり。

〔須〕

(一哩十六號)

磨] あはれ昔日は關守の夢をさませし千鳥の聲、今は疾病を養ふ男女の枕頭に落つ。この驛より東方五丁ばかりの須磨寺には無官太夫教盛が自筆の短冊あり、そが名残の青葉の笛あり、「一枝を切らば一指を剪る」と武藏坊が認めたる嫩木櫻の制札もあり。寺に近く教盛の塔あり。名産には教盛蕎麥あり、磯馴味噌あり。光源氏の古蹟あり。行平卿が左遷の跡も臚げながら夫かとなつかしく、忠度卿が行暮れし櫻も彼かとはかり衰し。此處より見上る山々は過ぎし源平二氏の古戦場なる一の谷二の谷三の谷にして、當時の皇居は一の谷の上なる織場が跡にありしとぞ。

〔鹽屋〕 此處より垂水驛に至る、其間一哩六十二鎖。

〔垂水〕 この驛より西方三丁に遊女塚あり。それより一丁にして五色

山あり。舞子へは一哩十六鎖とぞ。

〔舞子〕 名にし負ふ舞子の濱は停車場より七八丁の西方にあり、千歳

の松の縁は白き砂と相映じて風軽く浪清し、前面には通ふ千鳥の淡

路島あり。

〔明石〕 舊松平氏の城下にして、城は元和三年小笠原忠真の築くところなり。その城趾につゞきて歌聖柿本人麿を祀れる人丸神社あり、

境内に有名なる盲杖櫻あり。この邊一帯海に沿ふて夏日は海水浴

場によろし。

〔大久保〕 驛より北方二十丁に天郷の梅林あり、老梅六百餘株、花こと

くぐ八重にして色薄紅梅に匂ふ、中國一の香世界とぞ。その西方

十三丁には金ヶ崎の梅林あり、その花天郷に及ばずとも亦た一仙境

なり。

〔土山〕 驛より西南一里半に別府住吉神社あり、境内にある手枕松は

其枝延びて四十坪の地を蔽ふ。加古川驛へは四哩二十六鎖。

〔加古川〕 驛は、むかし萬葉に出でたる加古の湊にして、かの播州巡り

をなすものは、この驛に下車し、先づ尾上神社に至るべし、社内に

尾上松あり、尾上鐘あり、鐘は千年以前の古鐘にして高さ三尺二寸

周囲七尺二寸、厚さ二寸、その外面は見る人ごとに摩擦せられ燦然

として光輝あり、松は即ち相生の松にして雌松雄松相擁して枝葉四

方に延ぶ。また社殿の左方には奇松あり、その枝東方に茂りて更ら

に西方に向へる一枝もなし、これを都戀しき片枝の松といふ。尾上

より十丁あまりには高砂神社あり、ことには音に聲にし高砂の松あ

り。

〔一哩二鎖〕

〔寶〕 (二) (哩一十四) (寶) (御) (續四十四哩二)

り、尾上の松に比して更らに一層の風情ありと。この高砂は二百年前印度に渡りし天竺徳兵衛が産れしところなり。驛より五里北方に青野軍馬養成所あり。

〔殿〕 こゝに生石子神社とて山の半腹に一大巖石を穿ちて寶殿を作りなしたるところあり、相傳ふ大日貴神一夜に石の御殿を作らむとせられし遺跡とぞ。

〔根〕 驛には曾根の天神あり、社内には名木曾根松あり、幹の大きさは直徑七尺、高さ三丈、その枝葉四方に延びて殆んど四百坪の地面を蔽ふ、傳へいふ、最初の曾根松は菅公手植の松にして稀有の巨木となりしが、幾年の風雨に枯れ、今は二代の曾根松とぞ。

〔着〕 この驛より姫路に至る、其間二哩五十三鎮。
〔路〕 此處は舊酒井氏の城市にして人口三萬、その繁華播州第一と

(六 哩三 十 續)

稱す。市の北端なる姫路城は又た白鷺城と呼び、舊は赤松氏の守るところなりしが、慶長年間池田輝政こゝに九年の工を起して再築せしものといふ、今は第十師團の兵營となれり。鐵道は此處より分れて播但線の生野驛に達す。市より出る名産は姫路文庫、革細工などなり。またこの姫路より西北一里半にして書寫山あり、山頂の圓教寺は西國二十七番の札所にして、むかし白河法皇の風箏をとめさせたまひしところなり。圓教寺の西北七八丁に辨慶が學問所の遺跡今も尙存せるあり。驛より北方一里七丁には白國の梅林あり。その附近に増位の温泉あり。姫路の南方一里には飾磨の津あり、姫路に集散する貨物、皆悉くこの關門を出入す、されば市街の繁盛なる姫路に譲らず、戸數一千五百、人口六千餘と稱す。

〔網〕 干 驛より北方へ三丁、朝日山觀世音あり。此處より龍野驛へは

三哩五十六鎮なり。

〔龍〕

野 驛より北方一里十丁ばかりに龍野町あり、龍野は舊脇阪氏の治所にして醬油の名産地なり、町に野見宿禰の墓ありといふ。此處より南方二里ばかりに室津あり、むかし參勤交代のありしころは四國九州さては中國の大名小名いづれもこゝに纜を繋ぎて一夜絃歌の宴を張るのころなりしが、今は衰頹してその面影もなく、わづかに海士の菅屋につゞきて五百ばかりの軒を見るのみ。室津の南端なる加茂神社には平重衡が遺愛の琵琶を藏す。

(鎮四十六哩二)

〔那〕

波 驛は龍野の西方にあり。この驛より西南二里半には赤穂あり義士に名高く鹽に名高し。大石良雄が宅趾には今も昔のまゝの門を存す。赤穂は舊淺野氏の城趾にして元龜のむかし宇喜多直家の築きしものといふ。南方二里を隔て、坂越港あり、灣内水深くして良港

(鎮五十五哩四)

の稱あり。

〔有〕

年 驛より北方三里に餘る山上に、むかし赤松氏が籠りし白旗城の趾あり。これより上郡へは四哩五鎮とす。

〔上〕

郡 驛の西南二十丁に高嶺神社あり。此處より三石驛までは七哩七十七鎮。

〔三〕

石 むかし見島高德が聖駕を奪はむとて同志と共に待受しとぞいふ舟坂山は驛の東方十丁にあり。吉永驛に至る四哩三十鎮。

〔吉〕

永 驛より南方一里には有名なる閑谷學校あり、閑谷學校は嘗て藩主池田光政(新太郎少將)が熊澤蕃山先生に命じて子弟を教育せしめたる所、今は中國の碩儒西毅一翁こゝに惟を下して書生を訓

(鎮六廿哩三)

〔和〕

氣 此の驛を北方に向ふて七里、鷲の湯の温泉あり、その名世に

高し。萬富驛へは五哩三十鎮。

〔萬富〕 此處より瀬戸驛に至る二哩六十五鎮とぞ。

〔瀬戸〕 停車場より南方凡そ三里、西大寺村に有名の巨刹あり、西大寺

といふ、寶龜年間の建立にして、毎年正月元旦より二七日を期したる修正の大法會には、院主みづから國家安全五穀成就の祈禱をなす、その期満つるの日を會湯と呼び、參詣の人々裸體被髮となり境内に集まる、げに此地方に於ける一奇觀なり。

〔長岡〕 此の驛より程遠からぬ湯迫村には關白屋敷あり、むかし松殿の關白が配流の跡とぞ、(松殿の關白とは、かの平家の公達資盛と路に争ひ、車を擁かれし藤原基房の事)その近くに武士屋敷といふあり、松殿配流の勅、警固の武士が住みにし遺趾ならんといふ。

〔岡山〕 岡山は舊池田氏の城市にして戸數一萬二千人口五萬餘、岡山

(續一十四哩四)

(續七哩四)

縣廳は市内弓の町にあり、市の公園なる偕樂園は明治十年の新設にして園内には和氣清麿、楠正成、兒島高德を祀る、市の北隅なる岡山城は一に鳥城と稱し、宇喜多氏の築きしところ、今は只天主閣を存す。城北に朝日川を隔て、一區劃をなし、四方に竹を廻らしたるところ、こゝぞ日本三大公園の一なる後樂園にして、その面積殆んど三萬坪に亘る、そも、後樂園は、貞享三年、時の藩主池田綱政が創設に依りその臣津田重次郎が監督の下に成りしものとぞ、園の廣さ東西一百九十七間、南北一百十七間、もしそれ園中の勝を擧ぐれば、鶴見橋あり、鶴鳴館あり、延養亭あり、望湖園あり、花葉口あり、茂松菴あり、鏝池軒あり、藤棚あり、三州の八つ橋をうつして更らに奇巧を弄したる流店あり、園中の景を一瞬の下に集めて中秋の月を見るべき唯心堂あり、その他、梅林あり、島の茶屋あり

〔庭〕

(哩八十六哩五)

り、新亭あり、春によろしく秋によろし、夏は以て暑を避くべく冬は以て雪を観るべし。またこの岡山驛より十五丁餘には神道黒住派の本社宗忠神社あり、黒住派は天保年間黒住左京の唱導せしものにして、左京の没後、安政三年に至り宗忠大明神の神號を賜はり、明治九年神道黒住派として其筋より布教を免されしもの、本社は明治十六年の創建なり。

〔瀨〕

停車場を北方に向ふて三十丁、こゝに名高き吉備津神社あり推古天皇の御宇、こゝに古備津彦命を祭られしものとぞ、その結構壯麗中國第二と稱す、本殿は東西十九間餘、南北十間あまり、その西には百八十間の廻廊あり、廊は細谷川の清流に臨む、その中央より右に折れたるところは、名高き御釜御殿なり、もしこゝに詣づる人、半圓の賽錢を供せば、神に仕ふる「阿曾女」の一人、きづかに出

〔倉〕

(續一十六哩五)

來り供米を御釜に騎す、かくて暫くあつて、忽焉として御釜の鳴出づるを聞かん、古來傳へ曰ふ、その音徴々たる時は吉、轟々雷の如く響き波れば正しく凶なりと。またこの驛より北方へ二里半には高松稻荷あり、豊太閤が水責にせし高松城は此處より西北二里、佐々木三郎盛綱が先陣を渡したる藤戸は二里の南方にあり。

〔敷〕

兒島半嶋の咽喉にあつて備前南部の要地たり、四國への旅客は此處に下車して陸路五里下津井港に出づべし、こゝに丸龜、多度津への汽船常に來往せり。驛を出で、北方へ一里に小町塚あり。南方四里には名に高き瑜珈神社あり、風景絶佳の勝地なる豪溪へ赴くは此驛よりす。

〔玉〕

〔三哩〕

古來より歌に上りし玉島の地は、驛より西南二十五丁にあり玉島は備中の一要港にして此處よりは讃岐各港への汽船日毎に來往

(七十一)

〔金〕

せり。また西北半里には吉備温泉あり。南方一里には圓通寺あり。〔神〕東南二丁には大谷金神社あり。砂美の海水浴湯は東南凡そ一里半にあり。鴨方へは二哩十四鎮。

〔鴨方〕

中國街道の一小村落あり。附近に阿倉不動瀧あり。笠岡驛に至る、其間五哩と三十四鎮。

〔笠岡〕

こゝは備中の西南隅、水島灘に望む、灣は東西五丁、南北三丁に亘り、水深くして巨船を入る、人口約一萬、市街股賑あり、驛より東方半里あまりに廣瀆の温泉あり。過ぎし三千年の古昔我が神武天皇陛下が不知火の筑紫の果より舟師を率ゐ、まばし驛をこゝめさせ給ひしといふ、由緒も深き高嶋の行宮へは海上二里半。

〔天門〕

東方三丁に瀆守神社あり。讃岐通ひの漁船此處にも來往せり。福山へは四哩五十七鎮とす。

(鎮三十三哩四)

〔福山〕

福山城は元和のむかし水野勝成の築きしところ、徳川氏の頃には阿部氏世々の居城なりしが、今は毀たれて本丸は公園となり、外廓は田圃となりつゝ、只五層の天主閣のみ、むかしながらの礎を存す。公園には櫻樹多し、福山より三里隔て、保命酒に名高き朝の市街あり。

〔松永〕

こゝは中國街道の一驛にして人口四千餘、東南三里には阿伏兔の観音あり。尾道へは五哩六十九鎮。

〔尾道〕

中國の要港にして地山を負ひ海に望み、戸數殆んど五千、人口二萬に上る、市街の繁盛なる瀬戸内海第一と稱す。市外附近には千光寺あり。西國寺あり。浄土寺あり。これを尾道の三大寺とす。千光寺の境内に玉の岩あり、いにしへこの岩上に夜光の珠あり、闇の夜ごとに海上を光せしといふ。

(鎮十五哩五)

〔糸崎〕むかし長井の浦と呼びぬ、神功皇后が征韓の砌、こゝに舟装をなしたまひしところ。長井の水の古跡あり。近傍には糸崎神社あり。名高き薄墨の松あり。

〔三原〕三原城は天正年間小早川隆景が築きしところなり。附近に有名なる寺院を、大善寺、宗興寺とす。中にも宗興寺は小早川氏が世々の菩提寺として廣く世に知らる。西方十餘丁に西野の梅林あり。

〔本郷〕北方八丁に小早川氏の城趾あり、南方二十五丁に米山寺あり。この境内には土肥實平以來小早川隆景に至る十七代の墓石、今に存す。

〔河内〕近傍に大津の瀧あり。竹林寺あり。白市驛へは五哩と四十鎮なり。

〔白市〕驛は山間の一部落なり。西條へは五哩四十六鎮。

〔西條〕中國に通ずる國道に沿ふて稍繁華の地なり、戦國のところは菅田氏こゝに城きぬ。驛より三哩五十七鎮を隔て、八本松あり。

〔八本松〕この邊りに今も尙有名なる卜者篠村翁の閑居あり。瀬野驛へは六哩四十七鎮。

〔瀬野〕驛より海田市に至る、其間五哩三十九鎮とす。

〔海田市〕國道に沿ふたる驛にして戸數五百餘、こゝより南方五里には吳港あり、灣内水深くして我邦屈指の良港に數へらる、その西方に一小海峡を隔てし江田島には海軍兵學校あり、吳の地、舊は見る影もなき海邊の一小寒村なりしが、明治二十年、こゝに海軍鎮守府を置かれし以來、戸口の増加、文物の進歩は驚くべき現象を呈しぬ。

〔廣島〕市は東西一里、南北三十四丁、戸數三萬、人口約十萬、山陰

(鎮九十七哩三)

(一哩六十五鎮)

山陽第一の大都會にして、過ぐる明治二十七年、日清の役には大元帥陛下が大譚を進めまし、地なり、廣島城は毛利元就の築きしもの徳川氏の世には淺野氏累代の城下たりしが、今は外廓を毀ち、内曲輪は第五師團の本營となりぬ。廣島公園には饒津神社あり、社殿壯麗これに上れば廣島の市街一眸の中に集まる。また舊藩主淺野氏が別墅あり、泉邸と名づく、太田川を隔て、公園に向ふ、庭園には泉水あり、樹木あり、幽邃閑雅を極む。市の南方一里には宇品港あり明治二十二年の築港にして船舶常に輻輳し百貨こゝに集まる。

〔横川〕 このあたりは古昔武田氏の領地なりしかば、その城趾今に存す。北方二里半には八木の梅林あり。己斐驛へ一哩四十八鎮。

〔己斐〕 驛より五日市へは四哩と九鎮あり。

〔五日市〕 こゝより廿日市驛に到る、其間一哩五鎮とす。

(三哩七十二鎮)

(神戶驛より二百三哩)

〔廿日市〕 中國街道に當れる一小都會にして石州津和野への要路なり、この近傍には歴史に逆賊と唄はれし陶全美の墓あり。兄に思まれて横死を遂げし源範頼が塚あり。露深く草茂くしてうたゝ行人の袖を濡らしむ。

〔宮島〕 驛は國道の海岸にあり。直ちに宮島に渡るの便あり。宮島は周回七里、さすがに日本三景の一つなれば、四時ともに見るに飽かぬと、松にかゝれる紅葉の秋はまた一入の眺望なりとぞ、そもく、宮島に鎮坐しますところの嚴島神社は、素盞鳥尊の御女市杵島姫を奉祀して、その建立は遠く推古天皇の御世にありしを、治承年間平相國清盛大にこれを再興して、美を盡し善をつくしぬ、見よ、その本殿は桁間十三間二尺、梁これに適ふ、高舞臺あり、平舞臺あり、左右に長く屈曲したる廻廊は、延長百五十間、幅二間半、潮

(鎮一十二)

満ち来れば海水その床を洗ふて、社殿悉く浮びいつるの觀あり、左方に客社あり、鏡の池あり、右方に秀づる千疊閣は豊公が蒙奢の餘波、海中に立てる大鳥居は高さ七間二尺、額は故有栖川大宮殿下の御染筆とぞ、また反橋あり、御幸の松あり。丹碧の樓閣こゝに薨をならべて、げにや足一たび此處に入れば低徊去るに忍びずといふ名物は杓子、盆、櫻海苔などゝす。山陽鐵道は尙これより西方に走りて長門の下關に達す。

播但鐵道

(姫路、生野、新井間、飾磨、豆腐町間)

- 〔飾磨〕……〔天神〕……〔龜山〕……〔姫路〕……〔京口〕……〔野里〕……廣崎神社……増位温泉……白國の梅林……雲霧山……〔仁豊野〕……素麴の瀧……袖掛松……〔香呂〕……蛇穴神社……〔溝口〕……〔福崎〕口原文珠堂……鹽田温泉……〔甘池〕……〔鶴居〕……法樂寺……〔寺前〕……太田の瀧……

- 〔長谷〕……川上銅山……〔生野〕……生野銀山……御料局支院……教徳寺……紅葉の瀧……〔新井〕……南八郎の墓……神子畑銅山……城崎温泉……



(鎮一十二)

〔姫路〕

播但鐵道は此處に本社を置けど、その實、飾磨驛を起點とす飾磨を發して天神、龜山の二驛を経、豆腐町に至る、町は即ち姫路市内にあり。飾磨、豆腐町間僅かに二哩。

〔京口〕

驛の附近記するに足るものなし、直に野里驛に向ふ、その間一哩三十三鎮。

〔野里〕

この近傍には廣峰神社あり。増位温泉あり。白國の梅林は僅かに五丁、而して彼の書寫へは一里有半。次なる仁豊野驛まで、その距離二哩五十二鎮あり。

〔仁豊野〕

こゝに名高き素麴の瀧あり。袖掛松の舊跡あり。こゝより一

哩七十鎮にして香呂驛に入る。

〔香呂〕驛近くに蛇穴神社あるのみ溝口驛に至る一哩十七鎮。

〔溝口〕この邊、炭酸泉に富む。福崎驛へは二哩三十八鎮あり

〔福崎〕こゝより田原の文珠堂へは十八町。鹽田温泉へは二里。甘地

驛まで二哩九鎮。

〔甘池〕驛より二哩三十七鎮を隔て、鶴居の停車場あり。

〔鶴居〕この附近に有名なる巨利あり、法樂寺といふ。春の櫻花、秋

の紅葉は近郷に賞美せらる。寺前驛に至る三哩十二鎮。

〔寺前〕驛の北方三里にして太田の瀧あり、播州一と稱す。驛を出て

長谷驛に向ふ、その間三哩六十九鎮といふ。

〔長谷〕この驛近傍に川上の銅山あり、その鑛脈は生野より來れる

ものゝ如し。驛より四哩六十五鎮にして生野驛あり。

〔生野〕 (鎮五十哩五)

こゝに生野の銀山あり、鑛坑縦横に通ず、採掘の鑛物には銅あり、鉛あり、就中銀尤も多くして一年の産額優に十五萬貫を

超も。御料局支廳は生野町にあり。附近には櫻花に名ある教徳寺あり、紅葉に高さ紅葉の瀧あり。

〔新井〕播但鐵道の終點にして停車場より十丁ばかりには幕末正義の

武士と呼ばれし南八郎の墓あり。二里を隔て、生野鑛山の分工場あり、

神子畑鑛山といふ。有名なる城崎温泉へは十五里、道路平坦、

人車を馳せれば六時間に達す。この温泉は無色透明の鹽類泉にて六

ヶ所より湧出づ、また湯島の温泉と呼ぶ、土地僻遠なれども湯治の

客常に絶わす。姫路より此驛に至る延長三十二哩十九鎮。

中國鐵道

(岡山、津山間)

〔岡山〕……〔玉柏〕……〔野々口〕……〔金川〕……〔建部〕……
 〔福波〕……〔弓削〕……〔誕生寺〕……誕生寺……〔龜甲〕……〔津山〕……
 津山城址……津山公園……作樂神社



〔岡山〕 山陽鐵道岡山驛の西北一町を起點として、作州津山に達する線路あり、これを中國鐵道とす、此處を出で、瀧車の入るべき第一の停車場玉柏驛まで、その間四哩二十六鎮。

〔玉柏〕 別に記すべきほどの名勝なく古跡なし、瀧車は馳せて次なる停車場に向ふ。

〔野々口〕 玉柏より此處まで五哩五十八鎮とす、瀧車はこの驛を過ぎて金川驛に入る、その距離一哩六十七鎮。

〔金川〕 こゝには不受不施宗の本山あり、妙覺寺といふ。達部驛まで四哩四十五鎮なり。

〔建部〕 瀧車は蜿蜒として福波に向ふ、兩驛の間二哩と一鎮。

〔福波〕 こゝは因幡街道と伯耆街道との會合點なれば、さすがに市街繁盛なり。弓削驛に至る、その間六哩三十二鎮。

〔弓削〕 次なる誕生寺へ僅かに一哩六十八鎮なり。

〔誕生寺〕 停車場の近傍に圓光大師の誕生地あり、その地寺院となりて誕生寺と號す。陰曆三月二十三日には、盛なる練供養を行なはる、圓光大師は人も知る淨土宗の開山、一世の碩徳と尊ばれたる偉人なり。

〔龜甲〕 この驛を経て、瀧車は津山に達す。

〔津山〕 龜甲驛より四哩六十一鎮。作州第一の都會にして東北十餘

町には津山城跡あり。その北方には津山公園あり。また一里餘を隔て、作樂神社あり。瀧車岡山を出で、此處に達する時間は二時十八分間。哩程三十四哩七十六鎮に及ぶ。

大阪名勝終

明治三十六年一月廿三日印刷
全 三十六年二月一日發行

著 者 秋 浦 生

大阪名勝

發 行 者 兼 東京市日本橋區通一丁目十七番地 青 木 恒 三 郎

印 刷 所 大阪市西區新町北通二丁目六十五番邸 嵩 山 堂 印 刷 部 電話四七八番

發 行 所 大阪市東區心齋橋筋博勞町角 青 木 嵩 山 堂 電話四八五〇番

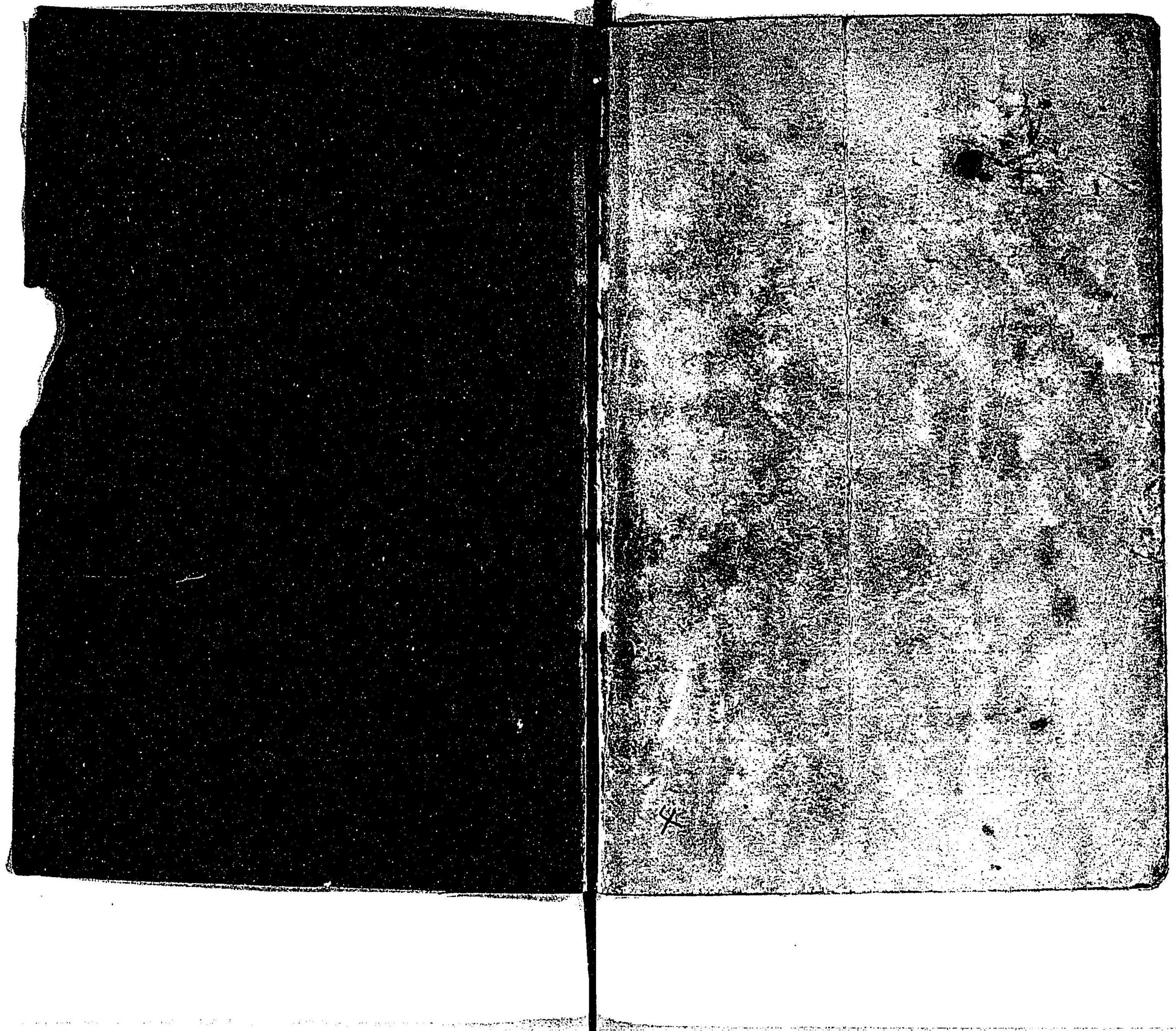
發 行 所 東京市日本橋區通一丁目角 青 木 嵩 山 堂 電話四本局七八九番

賣 捌 所 伊勢四日市市堅町 嵩 山 堂 支 店

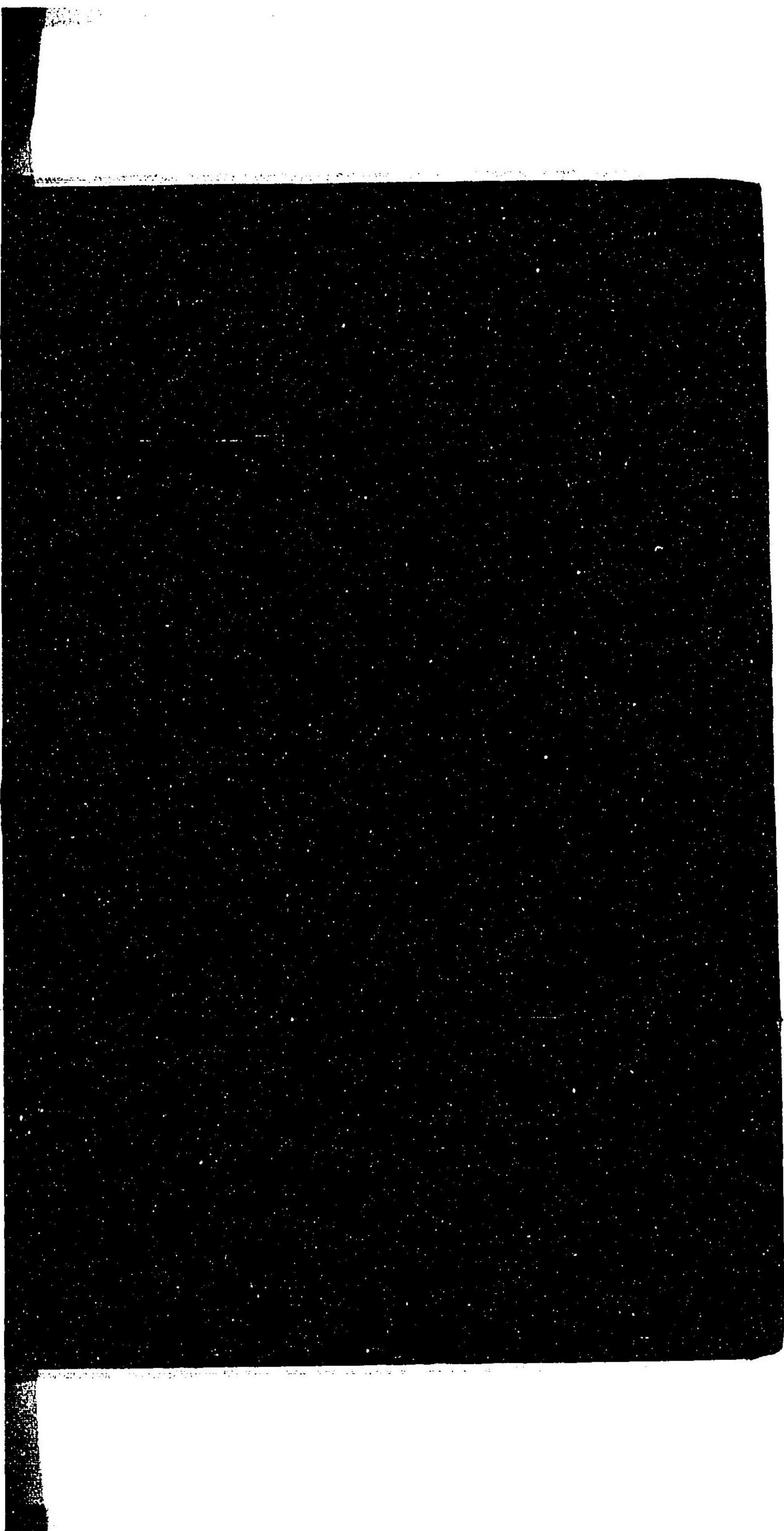
著 作 所 權 有

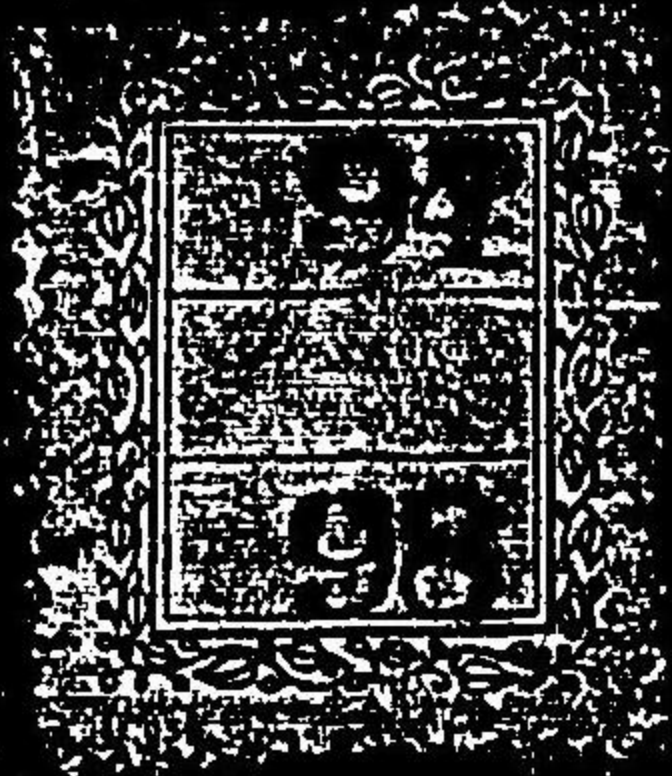
定價三十錢

94
98



94
98





025245-000-2

94-98

大阪名勝 附, 鉄道名勝案内

秋浦 生/編

図版

M36

ADC-2654

